

岡山大学病院

OKAYAMA UNIVERSITY HOSPITAL



OKAYAMA
UNIVERSITY

2025-2026
病院案内

世界への扉を開く



1870

理念

高度な医療をやさしく提供し、優れた医療人を育て、
社会・地域の持続的な健康増進に貢献します。

基本方針

- 先進的開発を行い、国際的に最高水準の医療環境を提供します。
- 全ての職員が高い倫理観を持って行動し、患者さんの尊厳を大切にします。
- 真摯に患者さんと向かい合い、安心・安全な医療を推進します。
- 医療人として豊かな人間性を育み、科学的な思考能力を養います。

臨床倫理指針

岡山大学病院は、病める人の治療はもとより人びとの健康の維持・増進を図り、
その責任の重大性を認識し「人を愛する」ことを基本に、
医療を受ける人々の尊厳や人権に十分配慮し、質の高い医療を提供します。

- 患者さんの人権と自己決定権を尊重し、人間性豊かな医療環境を実現します。
医療者は患者さんの信頼を得るように努め、患者さんの視点に則した医療行為を行います。
- 医療の発展のために、医の倫理に則った臨床研究を実施し、高度先進医療の提供と開発を行います。
また、患者さんの信条や命の尊厳に関する問題については、審議を行い治療方針を決定します。
なお、診療の質や医療行為の妥当性を検証します。
- 診療にあたっては、関係法規やガイドライン等を遵守するとともに、効率的な医療を提供します。

沿革

1870	明治 3年 4月	岡山藩医学館を設置	1975	昭和 50年 9月	中央診療棟竣工
	明治 3年 6月	岡山藩医学館大病院を併設	1979	昭和 54年10月	岡山大学歯学部を設置
1872	明治 5年 2月	岡山藩医学所・大病院を閉鎖	1981	昭和 56年12月	歯学部棟・歯学部附属病院棟竣工
	明治 5年 7月	岡山藩大病院内に医学所を設置し、 医学教場と称した	1982	昭和 57年 4月	歯学部附属病院を設置
1873	明治 6年11月	岡山県病院を設置	1985	昭和 60年 7月	現・外来診療棟竣工
1921	大正 10年 4月	岡山県病院を文部省に移管し、 岡山医学専門学校附属医院となった	2003	平成15年10月	医学部附属病院と歯学部附属病院 を統合し、医学部・歯学部附属病 院となる
	大正 11年 3月	岡山医学専門学校を廃止	2007	平成19年11月	現・入院棟竣工
1922	大正 11年 4月	岡山医科大学を設置、岡山医学専門 学校附属医院は岡山医科大学附属 医院に改称	2009	平成21年 4月	組織上の病院名を岡山大学病院に 改称
			2016	平成28年10月	総合診療棟竣工
1949	昭和 24年 5月	岡山医科大学は岡山大学に包括され 岡山大学医学部となり、医学部附属 病院を設置			

ごあいさつ

患者さんのために、
保健・医療の発展のために、社会のために



岡山大学病院の理念は、「高度な医療をやさしく提供し、優れた医療人を育て、社会・地域の持続的な健康増進に貢献する」です。当院は、1870（明治3）年の岡山藩医学館大病院が開設して以来、150年を超える長い歴史と伝統を受け継いできた病院ですが、私達は、これまでも、そしてこれからも患者さんに最良な医療を届けていきたいと考えています。

当院は、ロボット支援下手術やIVRなどの低侵襲医療、臓器移植や高難度手術、集学的がん治療などの高度先進医療を提供してきました。また、これからの発展が期待される免疫療法やゲノム医療も強力に推し進めていきます。当院は、「がんゲノム医療中核拠点病院」に選定され、個々のがん患者さんに最適な医療を提供するだけでなく、治験・先進医療を主導し研究開発を進めることにより、がんゲノム医療を牽引する役割を担っています。ゲノム医療総合推進センターを中心に、腫瘍センター、希少がんセンター、バイオバンク、臨床遺伝子診療科などが一体となつて、がんゲノム医療の発展に取り組んでいます。

「臨床研究中核病院」そして、「橋渡し研究支援機関」でもある当院は、基礎研究から実際の患者さんの治療まで届く革新的医薬品・医療機器の開発研究を続けています。岡山大学病院は、産学官連携事業を推進し、分野を横断した研究環境から革新的な医療を生み出すことを通じて、社会・地域の持続的な健康増進に貢献していきます。これからも職員一丸となって患者さんと社会・地域からの期待に応えられるよう全力で取り組んでまいりますので、今後とも岡山大学病院をよろしくお願いします。

岡山大学病院長 前田嘉信

執行部



（写真左から）前島一実事務部長、窪木拓男副病院長（診療・研究〈歯科〉担当）、安藤瑞生副病院長（医療安全管理担当）、増山寿副病院長（診療〈医科〉（兼）防災担当）、伊原木聡一郎副病院長（教育〈歯科〉担当）、前田嘉信病院長、大塚基之副病院長（企画・総務運営担当）、豊岡伸一副病院長（大学病院改革プラン担当）、櫻井淳副病院長（研究〈医科〉担当）、森実真副病院長（教育〈医科〉担当）、座間味義人薬剤部長、岩谷美貴子副病院長（看護・患者サービス担当）

Topics 1

総合周産期母子医療センターに指定 ～入院棟4階に各病室を完備～

岡山大学病院はこれまで地域周産期母子医療センターとして、重症合併症を有する妊婦さんや母体合併症に伴う早産や重症の先天性疾患を有する新生児の受け入れを行ってきましたが、多くの専門診療科を有する高度医療提供施設として、



妊婦さんの救急受け入れや、早産で出生した児および重症の先天性疾患を有する新生児の受け入れを円滑に行う必要性が増してきたことから、2024年9月にNICUを12床、GCUを12床に増床し、2025年6月にはMFICUを新たに6床設置する改修工事が完了しました。NICU・GCUの拡充およびMFICUの設置を受けて、2025年6月1日、岡山県から「総合周産期母子医療センター」として指定されました。運用開始前の5月27日には、開所式とMFICU内覧会を実施（＝左写真）。今後は地域の医療機関と連携を図りながら、当院の周産期診療体制をより強力なものにするだけでなく、周産期医療を専門とする医師の育成にも力を入れ、持続可能な周産期医療の構築により一層貢献していきます。

病室の紹介



NICU (Neonatal Intensive Care Unit) = 新生児集中治療室 〈12床〉

医療的な治療や支援が必要な赤ちゃんを専門にケアする病室。早産や低体重で出生した新生児、心臓、肺、胃腸など諸臓器に疾病のある新生児、重い疾病を有する母体より出生した新生児などが対象で、多職種の専門スタッフが24時間体制で赤ちゃんの命と成長をサポートしています。



GCU (Growing Care Unit) = 新生児回復室 〈12床〉

NICUで治療を受け、比較的状态が安定した赤ちゃんが過ごす病室。継続的な治療や看護を受けながら、退院に向けての準備を行います。赤ちゃんの成長を見守りながら、育児指導や退院後の環境調整など多職種連携によるサポートも行われます。



MFICU (Maternal Fetal Intensive Care Unit) = 母体胎児集中治療室 〈6床〉

母体や胎児に重篤な合併症やリスクがある場合に、専門的な医療と看護を提供するための病室。妊娠高血圧症候群や切迫早産、多胎妊娠、妊娠糖尿病などの合併症、胎児疾患や胎児発育不全、前置胎盤や常位胎盤早期剥離など大量出血のリスクがある妊産婦に、血圧・心拍・呼吸などのモニタリングを行うほか、点滴や投薬で早産の予防や血圧管理を行い、必要に応じて早期分娩や緊急帝王切開の準備を行います。

Topics 2

聴覚支援センターの取り組み ～聴覚障害者が安全に安心して暮らせるために～

■聴覚障害者向け緊急通知音振動変換アプリの開発

聴覚支援センターは情報技術開発株式会社と共同で、聴覚障害者向け緊急通知音振動変換アプリ「D-HELO（ディー・ヒーロー）」を開発しました。本アプリは、Apple Watchを活用して緊急車両のサイレンや火災報知器などの警報音をリアルタイムで検知し、振動や画面表示でユーザーに通知します。音による情報取得が難しい聴覚障害者が、災害時や緊急時に遅れずに避難行動を取るための支援を目的に開発しました。今後はユーザーの声を反映させて精度や機能を向上し、日常生活の安全性の確保に繋げていきます。



■自治体と連携して聴覚スクリーニング検査を展開



デジタル田園健康特区事業として岡山県吉備中央町など複数の自治体と連携して、加齢性難聴の早期発見プロジェクトを展開しています。Audika株式会社の協力のもと、全国初となる聴力検査専用の検診車両（左写真）を導入し、高齢者を中心とした聴覚スクリーニングを展開しています。聞こえにくさを放置することは、社会的孤立や認知症にも繋がる危険性が高まります。プロジェクトでは難聴の早期発見を促すだけでなく、耳鼻咽喉科受診や認定補聴器技能者を介した適切な補聴器購入を推奨しています。地域に根ざした取り組みで、聞こえと生活の質の向上を目指しています。

Topics 3

入院前サポート室リニューアル！ ～全入院患者への支援拡充に向けて～

総合患者支援センターは2022年度に組織改編を行い、「入院前支援」と「退院支援」を一連の流れで実施する〈Patient Flow Management〉の構築に努めています。2025年度中に精神科神経科を除く全診療科で入院前支援を行うために、入院支援室は2024年9月30日に中央診療棟1階へ移転し、名称を【入院前サポート室】に改称しました。

看護師・薬剤師・管理栄養士が予定入院患者さんの情報を入院前に把握し、問題点に早期に着手することで、効率的なケアの提供と適切な入院期間の確保に繋がっています。

外来から入院へ、そして退院後の療養へと地域連携の推進を実践することで、安心で安全な入院生活を提供しています。



中央診療棟1階ポスト横



広々とした入院前サポート室内

組織図



2025年6月1日現在

医科系診療科

Clinical Divisions (Medicine)

詳しくはこちらから▶



総合内科・総合診療科



診療科長
大塚 文男

全人的な医療により、医療スタッフがチームを組んで診療を行います。

対象疾患

- 内分泌・代謝疾患、ホルモンの異常
- 原因不明の発熱・倦怠感
- 体重減少
- 頭痛・めまい
- 関節痛・リンパ節腫脹
- 腹痛・胸痛
- 浮腫
- 上記の症状・病態を含む内科疾患全般

診療・研究内容

「病気を治す」だけでなく、全人的な医療により「病気の人を治す」ことを目標に、医療スタッフがチームを組んで診療を行い、患者さんの生活の質の向上に努めます。詳細な医療面接に加え、血液・画像検査などを必要に応じて行い、最適な治療方針を選択します。内分泌代謝疾患、消化器疾患、血液疾患、呼吸器疾患、自己免疫疾患など内科系疾患に幅広く対応しています。また複数の疾患が関連しており、受診すべき診療科が決まらない場合や診断に苦慮する患者さんなどに対して、総合的・全人的に診断・治療を行います。

「漢方外来」「不明熱外来」「コロナ・アフターケア外来」「コロナワクチン副反応外来」「パラアスリートヘルスケア外来」などの専門外来を開設し、さまざまな症状に悩む患者さんの診療を行っています。

血液・腫瘍内科



診療科長
前田 嘉信

血液悪性疾患を中心とした血液疾患に対する世界最先端の治療を岡山から！

対象疾患

- 急性骨髄性白血病
- 急性リンパ性白血病
- 骨髄異形成症候群
- 悪性リンパ腫
- 慢性骨髄性白血病
- 多発性骨髄腫
- 慢性活動性EBウイルス感染症
- 再生不良性貧血

診療・研究内容

あらゆる血液疾患の診断・治療を専門に行っています。各疾患における世界的なエビデンスや治療ガイドラインに基づきながら、患者さん一人一人について丁寧な診療を実践しています。また、世界で最も進んだ医療を提供すべく、新薬の治験や臨床試験、造血幹細胞移植、CAR-T細胞療法など最先端の治療を行っています。特に難治性の血液悪性疾患に対しては、造血幹細胞移植を積極的に実施しており、2023年実績48例と全国の国公立大学の中でも屈指の造血幹細胞移植推進拠点病院です。また、2019年末より、難治性の急性リンパ性白血病・悪性リンパ腫・多発性骨髄腫に対してCAR-T細胞療法を行っており(2023年実績50例)、すべてのCAR-T製剤が使用可能な国内有数のCAR-T細胞療法施設でもあります。

消化器内科



診療科長
大塚 基之

最適な医療を実践し、大学病院だからこそできる高度な医療を安全に提供します。

対象疾患

- 咽頭がん、食道がん、胃がん、悪性リンパ腫、粘膜下腫瘍
- 食道アカラシア、食道・胃静脈瘤
- 潰瘍性大腸炎、クローン病、ベーチェット病
- B型肝炎、C型肝炎、非アルコール性脂肪肝炎、劇症肝炎
- 肝細胞がん、自己免疫性・薬剤性肝疾患
- 胆道がん、膵臓がん、十二指腸乳頭部腫瘍、膵のう胞
- 膵内分泌腫瘍、急性・慢性膵炎、胆石症・膵石症
- 大腸ポリープ、大腸がん、小腸がん

診療・研究内容

消化器内科は消化管、肝臓、膵・胆道疾患を専門領域とし、光学医療診療部、炎症性腸疾患 (IBD) センター、神経内分泌腫瘍センターも担当しています。咽頭・食道・胃・大腸病変に対する質の高い内視鏡診断・治療を行っており、中四国地方で初導入したアカラシアに対するPOEMは250例以上の治療実績があります。IBD (潰瘍性大腸炎・クローン病) は患者さんの病態や生活に応じて専門的な治療を提供します。2025年4月から、脂肪性肝疾患に対する専門外来を新たに開設するとともに、肝がんに対してはラジオ波焼灼療法を中心に肝動注療法や分子標的薬治療などの最新治療を行います。膵・胆道がんに対しては内視鏡的ドレナージ、化学療法に加え、がんゲノム検査も行っており、研究面では膵内分泌腫瘍に対する低侵襲治療 (エタノール局注・ラジオ波焼灼) の確立に取り組んでいます。

呼吸器・アレルギー内科



診療科長
富樫 庸介

岡山大学病院に来てよかったと思えるような丁寧で高度な治療を提供します。

対象疾患

- 肺がん、胸部悪性腫瘍、リンパ脈管筋腫症
- 間質性肺炎
- 気管支喘息、COPD
- 呼吸器感染症
- 非感染性肺臓炎 (過敏性肺臓炎など)
- サルコイドーシス、肺胞蛋白症
- 睡眠時無呼吸症候群
- 原発不明がん・肉腫

診療・研究内容

最も一般的な疾患系のひとつである呼吸器疾患は、感染性肺炎など身近な病気から肺がんや間質性肺炎 (特発性肺線維症など) といった難治性で重篤な病気まで多岐にわたることが特徴です。咳や息切れなど生活の質に関わる症状がでる疾患であるため、地域医療とも連携して患者さんおよびご家族に寄り添い、きめ細やかな医療、現在の最善の医療を提供できるよう日々努めております。治療を始めるにあたり期待される効果のみならず予想される副作用、他の治療選択肢などを詳しく説明し、ご本人およびご家族にご納得いただいてから治療を開始します。また当科では、治療選択肢の一つとして良性・悪性呼吸器疾患に対する新規治療薬の治験を積極的に行っています。当科で治療ご希望の方はかかりつけの先生を通して受診予約をお願いします。



腎臓・糖尿病・内分泌内科



診療科長
和田 淳

生活習慣病から難病・希少疾患まで幅広く診療いたします！

対象疾患

- 腎臓病（CKD、ネフローゼ症候群など）
- 高血圧症
- 糖尿病（１型・２型・その他）
- 肥満症
- 脂質異常症
- 甲状腺疾患（パセドウ病など）
- 下垂体疾患（下垂体機能低下症など）
- 副腎疾患（褐色細胞腫など）

診療・研究内容

以下の診療に関して各専門グループが個々の症例についてカンファレンスで詳細に検討し、検査方針や確定診断、治療方針の決定を行います。高度先進医療や治験、臨床研究にも積極的に取り組んでいます。

- 腎生検等による腎疾患の診断と治療、腎代替療法（血液透析・腹膜透析・腎移植）の選択指導・導入、腹膜透析患者や腎移植後患者の管理など
- 糖尿病、脂質異常症、肥満症、メタボリック症候群等の代謝性疾患の生活指導と薬物治療、持続皮下血糖測定（CGM）、インスリン持続皮下注入療法（CSII）など
- 視床下部・下垂体・甲状腺・副甲状腺・副腎・性腺等の内分泌疾患等の精査（内分泌負荷試験、甲状腺超音波検査等）・治療など

循環器内科



診療科長
湯浅 慎介

あらゆる循環器疾患（心臓や血管）に対する先進的な医療を、安心・安全にお届けします。

対象疾患

- 心不全
- 虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞）
- 不整脈
- 弁膜症
- 心筋症、循環器難病
- 末梢動脈疾患
- 成人先天性心疾患
- 肺高血圧症

診療・研究内容

すべての循環器疾患を対象に、様々な学会の認定する専門医が高い専門性を生かして良質な診断・治療に取り組んでいます。難治性不整脈に対するアブレーションやデバイス治療、弁膜症や先天性心疾患に対するカテーテル治療などを積極的に行い、国内有数の症例数に対して良好な成績で行っています。心筋梗塞などの緊急を要する病気に対しては、24時間365日対応しています。当院は植込み型補助人工心臓の実施施設であり、心筋症や難病などによる重症心不全に対する集学的治療を実践しています。外科治療が必要な病気に対しては、心臓血管外科と協力して診療にあたっています。患者さんとのコミュニケーションを大切に、地域の医療機関との連携を大事にしています。息切れ、動悸や胸痛など心臓に関する心配がありましたら、いつでもご相談ください。

リウマチ・膠原病内科



診療科長
松本 佳則

膠原病やリウマチ性疾患を中心に診療を行っています。

対象疾患

- 関節リウマチ
- 全身性エリテマトーデス
- 強皮症
- 多発性筋炎、皮膚筋炎
- 血管炎
- 自己炎症症候群
- 脊椎関節炎
- ベーチェット病

診療・研究内容

入院患者さんの場合、助教以上の常勤医および医員が参加し、新入院カンファレンスや回診において、診断・治療の検討を行っています。さらに、リウマチ・膠原病グループが個々の症例についてカンファレンスで詳細に検討を行い、確定診断および治療方針の決定を行っています。関節リウマチの治療では生物学的製剤（抗サイトカイン療法）/JAK阻害剤を用いて積極的に寛解を目指しています。その他の疾患にも根拠に基づいた最先端の治療を導入し、難治性疾患については治験として各種新規治療法を実施しています。またリウマチ性疾患の病態解明や新規治療法の開発を目指した臨床・基礎研究を積極的に展開し、多くの新しい発見を世界に発信し続けています。

脳神経内科



診療科長
石浦 浩之

脳卒中や認知症、神経変性疾患、神経免疫疾患などを対象にしています。

対象疾患

- 認知症（アルツハイマー病など）
- 脳梗塞
- パーキンソン病、パーキンソン症候群
- 筋萎縮性側索硬化症
- 頭痛、てんかん
- 重症筋無力症など神経免疫性疾患
- 脊髄小脳変性症
- 遺伝性疾患、筋疾患

診療・研究内容

全国の医療機関より多数のご紹介をいただいております、中四国の代表的な大学病院としての役割を担うとともに、山陽地区神経難病ネットワーク、山陽脳卒中協議会を設立し、難病相談、患者会を通じ神経難病や脳卒中で闘病中の方に対して、医療支援だけではなく、生活支援、就労支援も行い、地域医療貢献の努力をしています。脳卒中や認知症（アルツハイマー病など）、神経変性疾患（筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症、パーキンソン病など）、神経免疫疾患（多発性硬化症、重症筋無力症、CIDPなど）、筋疾患（筋ジストロフィーや筋炎など）など様々な疾患を専門にしています。アルツハイマー病の治療薬であるレカネマブの投与も開始しました。神経筋疾患の遺伝子や筋萎縮性側索硬化症、神経再生などの研究を主に行っています。

感染症内科



診療科長
大塚 文男

「すべての臓器のあらゆる感染症」を対象に最先端の診断・治療・予防医療を提供します。

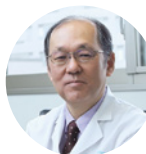
対象疾患

- 院内感染症
- 薬剤耐性菌
- 日和見感染症
- 重症感染症
- HIV／AIDS
- 輸入感染症
- 渡航ワクチン
- 新興／再興感染症

診療・研究内容

病棟では各専門診療科からの感染症コンサルテーションに対応し、抗菌薬適正使用を意識しながら感染症診療の標準化に貢献しています。特に臓器移植や免疫抑制療法によって免疫不全状態となる方が多く、日和見感染症の診断・治療・予防のサポートもしています。専門外来ではワクチン接種・HIVなどの診療を担っています。診療と並行して院内の感染制御活動にも積極的に関わり、院内感染対策の強化に取り組むとともに、岡山県内唯一の第一種感染症指定医療機関として機能するために新興／再興感染症対策を進めています。研究面では、薬剤耐性（Antimicrobial Resistance: AMR）が国内外で保健衛生上の大きな問題となっている現状において、AMRに関連した疫学調査・ゲノム解析・新規治療の開発に力を入れています。

肝・胆・膵外科



診療科長
藤原 俊義

ロボット手術から肝移植まで高度な技術で最新・最善の外科治療を提供します。

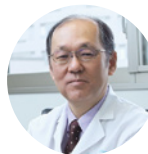
対象疾患

- 肝がんなどの肝疾患
- 膵がんなどの膵疾患
- 胆管がんなどの胆管疾患
- 胆石症
- 肝不全
- 肝硬変
- 脾臓疾患

診療・研究内容

当科は、年間約140件の肝切除、85件の膵切除、15件の肝移植を手掛け、中国・四国地方トップクラスの手術実績を持つ High volume centerです。近年は、ロボット手術（低侵襲手術）に力を入れており、年間120例以上の実績を持ち、肝切除・膵切除・胆管拡張症手術の全てを行う最先端施設です。肝胆膵疾患は、手術の難易度が高く難治性がんが多いことが特徴ですが、関係各科と緊密な診療連携を構築し、患者さんに最適で質の高い外科治療の提供を心がけています。他院で切除不能とされるような進行がんも積極的に受け入れ、手術の可能性を追求しています。私たちは、患者さんにとっての最後の砦として「最善の外科治療、最後まで諦めない外科治療」をモットーに、強い気持ちを持って診療にあたっています。

消化管外科



診療科長
藤原 俊義

安心・安全な外科医療の提供を。

対象疾患

- 食道疾患（食道がん、食道裂孔ヘルニアなど）
- 胃疾患（胃がん、胃粘膜下腫瘍など）
- 大腸疾患（大腸がん、小腸腫瘍など）
- 炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病など）

診療・研究内容

- 食道：食道がん手術の8割以上が低侵襲手術（胸腔鏡・腹腔鏡手術やロボット支援下手術）です。また、高度進行がんの患者さんに対して、集学的治療（化学療法や放射線療法など）を駆使して、個々の患者さんに最適な治療を提供しています。
- 胃：胃がんの9割以上が低侵襲手術（腹腔鏡手術・ロボット支援下手術）に移行し、機能温存による体に優しい治療を目指しています。高度進行がんに対しては集学的治療により、治療成績の向上を目指しています。
- 大腸：大腸がんの9割以上に低侵襲手術（直腸がんではロボット支援下手術が第一選択）を積極的に行っており、局所進行直腸がんでは集学的治療を行い、予後の向上を目指しています。
- 炎症性腸疾患では、比較的若年の患者さんが多いため、低侵襲性に加え、整容性にも配慮した手術を心掛けています。

呼吸器外科



診療科長
豊岡 伸一

肺移植などの高難度手術やロボット手術などの最先端手術を積極的に行っています。

対象疾患

- 肺がん
- 転移性肺腫瘍
- 縦隔腫瘍
- 炎症性肺疾患
- 気胸
- 胸膜中皮腫
- 漏斗胸
- 多汗症

診療・研究内容

1998年に日本で初めての肺移植を成功させ、今までに200例以上の肺移植を行ってきました。手術成績は極めて良好で、5年生存率は約75％であり世界の最高水準です。肺がんについても、2000例以上の手術の経験とデータに基づき、根治性が高く、安全な手術・治療を行っています。肺移植で培った技術を生かした拡大手術から、ロボット支援手術・単孔式胸腔鏡手術などの低侵襲手術まで幅広く行っています。肺がん以外にも転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、胸膜中皮腫などすべての呼吸器外科手術が可能です。ロボット支援手術はすでに500例以上行い、手術成績も良好で、患者さんからも好評を得ています。すべての手術について呼吸器外科だけでなく、呼吸器内科、放射線科とも連携をとりながら、患者さん一人一人にとって最適な治療法を選択しています。



乳腺・内分泌外科



診療科長
枝園 忠彦

様々な領域の専門医が国内最先端の手術および薬物療法により治療を行ってまいります。

対象疾患

- 乳がん
- 乳腺腫瘍
- 甲状腺がん
- 甲状腺良性疾患（バセドウ、甲状腺腫）
- 副甲状腺腫瘍

診療・研究内容

我々は、豊富な各領域の専門家（乳腺専門医・がん薬物療法専門医・内分泌外科専門医・乳がん看護認定看護師・がん専門薬剤師・作業療法士など）による国内最先端の治療を行っています。どのような病状および基礎疾患のある患者さんでも、しっかりと対応いたしますのでお困りの際はお気軽にご紹介ください。また、最先端の薬剤の治験を中国四国地方で最も多く行っています。ぜひご協力いただきますようお願いいたします。

手術療法：整容性の高い乳房部分切除・一次および二次乳房再建（自家組織および人工物）・ラジオ波焼灼術・Targeted axillary dissection（TAD）もしくはTargeted axillary surgery（TAS）その他、若年性乳がんに対する生殖機能温存やがんゲノム検査・遺伝性乳がん検査など

心臓血管外科



診療科長
笠原 真悟

年間約700例の手術数を誇る小児および成人心臓血管外科チームによるハイレベル診療を行っています。

対象疾患

- 小児先天性心疾患
- 成人先天性心疾患
- 成人後天性心疾患
- 成人大血管疾患
- 成人末梢血管疾患
- 重症心不全

診療・研究内容

小児心臓血管外科と成人心臓血管外科から成る、高い専門性をもって様々な疾患の治療に取り組む国内有数の心臓血管外科施設です。小児心臓血管外科は国内最大級の手術数を誇る新生児手術や複雑心奇形の治療経験が豊富で、世界的に非常に良好な成績を上げています。また腋窩小切開による心房および心室中隔欠損症手術や、成人先天性心疾患への心臓血管手術、小児心臓再生医療を積極的に行っています。

成人心臓血管外科は他院で対応困難とされた重症例を数多く引き受け積極的に診療を行うと同時に、岡山県の大動脈緊急症拠点病院として急性大動脈疾患の手術診療を24時間365日行っています。重症心不全の外科治療にも力を入れており、植込型補助人工心臓実施施設として成人・小児すべての患者さんへ専門性の高い集学的治療を提供しています。

腎泌尿器科



診療科長
荒木 元朗

腎、尿管、膀胱、前立腺や生殖器の疾患に対し、手術や薬物療法など幅広く行っています。

対象疾患

- 尿路性器腫瘍
- 尿路結石
- 尿路感染症
- 腎移植
- 排尿障害
- 男性機能障害
- 女性泌尿器疾患
- 性別不合

診療・研究内容

2010年に国立大学病院では初めて手術支援ロボットシステム（da Vinci）を導入し、これまでに約2,000例のロボット手術を行っており、泌尿器科領域で保険適用されているすべてのロボット手術を行うことができる全国有数の施設です。また、腎移植は累計150例以上行っており、1年生存率、生着率ともに100%を維持しています。腎移植とロボット手術を組み合わせたロボット支援自家腎移植の臨床応用（アジア・ヨーロッパ初）、ロボット支援腎盂形成術（国内初）も行っています。さらに、上部尿路がんに対するアブレーション治療や腎がんに対する腎凍結療法（放射線科と協力）、中四国唯一のジェンダーセンターを有しており、先進的医療技術の開発と標準的診療技術の確立に取り組んでいます。

小児外科



診療科長
谷本 光隆

こども目線の優しい治療を心がけています。

対象疾患

- 新生児の外科的疾患
- 小児頭頸部／体表疾患
- 小児の呼吸器／胸壁疾患
- 小児消化管疾患
- 小児肝胆道系疾患
- 小児泌尿器疾患
- 小児悪性固形腫瘍
- 小児鏡視下／ロボット支援下手術

診療・研究内容

小児外科はこどもの外科的診療を行う専門分野です。消化器、呼吸器、泌尿生殖器、小児がん、体表など多岐にわたる病気を扱います。こどもは体が小さいだけでなく、すべての臓器が未熟なため、手術を行うには成人とは全く異なった専門的な知識、技術が必要です。

以前は傷を大きく開ける手術が主体でしたが、現在は傷の小さな内視鏡手術も広く行われています。当科では小児内視鏡手術のほとんどに対応しており、さらに全国に先駆けてロボット支援下手術の導入も行っています。また、他の施設では対応が難しい病気をもった患者さんも、他の診療科と協力して積極的に診療を行っています。同時に、鼠経ヘルニアなどの頻度の高い病気の診療も行っています。お子さんのことで気になることがございましたら、お気軽にご相談ください。

小児心臓血管外科



診療科長
笠原 真悟

国内最大級の手術件数に裏打ちされた高い技術で、新生児・複雑心奇形の手術経験が豊富です。

対象疾患

- 小児先天性心疾患（心房中隔欠損症、心室中隔欠損症、動脈管開存症、ファロー四徴症、大血管転位症、左心低形成症候群など）
- 成人先天性心疾患（成人期に手術が必要となる先天性心疾患）
- 重症心不全（拡張型心筋症や心筋炎など）

診療・研究内容

当科は先天性心疾患を持つ患者さんに最高の外科治療を提供すべく設置されました。年間約350例の手術を行う国内最大級の施設として、県内、中四国地方はもとより日本全国や海外からも患者さんを受け入れています。

小児循環器科、小児麻酔科、産科婦人科、小児科との協力体制のもと、新生児や複雑心奇形の治療経験が豊富で死亡率は1%以下です。特に左心低形成症候群に対するノーウッド手術（佐野変法）は現在まで200例を超え、世界的に非常に良好な成績を上げています。心房中隔欠損症や心室中隔欠損症などに対しては、右脇の下からの小切開手術を行い、胸に傷跡が残らない工夫をしています。その他には成人期を迎えた先天性心疾患患者さんの心臓手術や、ECMOや補助人工心臓を用いた重症心不全の外科治療、小児心臓再生医療を積極的に行っています。

形成外科



診療科長
高成 啓介

失われた機能と形態を取り戻す、患者さんのよりよい生活のために力を注ぎます。

対象疾患

- 悪性腫瘍切除後の再建
 - 頭頸部再建
 - 乳房再建
 - 四肢再建
- リンパ浮腫
- 顔面や頭部、体幹、手足の先天異常
- 血管腫、血管奇形
- 性別不合（性別違和、性同一性障害）

診療・研究内容

形成外科は皮膚や脂肪、筋肉、骨などを用いて、主に体の外面構造を再構築する“形成手術”を行い、患者さんのQOL向上に貢献する外科です。特に、微小な血管をつないで組織移植を行うマイクロサージャリー分野を得意としており、この技術により、腫瘍の切除によって失われてしまった形態や機能を、大きく改善・回復させることが可能です。

単に形を作るのではなく、より自然な形態に整えることを目指し、前述の再建治療のみならず生まれつきの形態異常や、血管腫・血管奇形、性別違和などに対しても、関連各科と綿密に連携して治療にあたっています。

また、リンパ浮腫においては先進的な病態評価、治療法の研究を進めており、多くの成果をあげています。

常に患者さんに最善最良の治療を提供できるよう、スタッフ一同努めてまいります。

整形外科



診療科長
尾崎 敏文

運動器（骨、関節、背骨）のスペシャリストです。何でもご相談ください。

対象疾患

- 腫瘍：骨軟部腫瘍原発性腫瘍（良性および悪性）、転移性骨腫瘍など
- 関節：関節リウマチ、変形性関節症、特発性大腿骨頭壊死、股関節唇損傷、大腿骨寛骨臼インピンジメント、半月板損傷など
- 脊椎：椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症、側弯症、脊椎・脊髄腫瘍、脊髄損傷、脊椎関節炎など
- 小児：発育性股関節形成不全、内反足、斜頸など
- スポーツ：スポーツ傷害全般、前十字靭帯損傷、足関節外側不安定症など
- 上肢の外科：先天奇形、絞扼性末梢神経障害など
- 外傷：四肢・骨盤骨折、脱臼、偽関節、骨髄炎など
- 足の外科：外反母趾、変形性足関節症、扁平足など

診療・研究内容

骨軟部悪性腫瘍の四肢温存手術、脊椎手術、股・膝・肘・足の人工関節、関節鏡を用いた低侵襲手術、骨折手術をはじめとする整形外科全領域の疾患を対象とし、専門グループによるチーム医療を行っています。手術症例は全例、週2回のカンファレンスで全スタッフによる検討を行っています。遺伝性骨・軟部腫瘍外来では、遺伝学的検査や、iPS細胞を用いた研究を臨床にフィードバックする取り組みを行っています。また、サッカーJ1 ファジアーノ岡山をサポートしています。

皮膚科



診療科長
森実 真

すべての皮膚の病気に対して、最良の治療を提供しています。

対象疾患

- アトピー性皮膚炎、乾癬、皮膚感染症
- 皮膚腫瘍（良性と悪性を含む）
- 脱毛症
- 白斑
- 希少皮膚疾患（天疱瘡、類天疱瘡、先天性皮膚疾患、皮膚リンパ腫）
- アレルギー性疾患（薬疹を含む）
- 自己免疫性疾患
- 重症熱傷

診療・研究内容

視診・触診で診断を絞り込み、確定診断や病状把握に必要な血液検査、ダーモスコピー、皮膚エコー検査、皮膚生検、アレルギー検査、遺伝子診断など施行します。最終診断と治療指針はカンファレンスで協議・再評価します。外用や内服のほか、疾患によって化学療法、光線療法、手術療法を実施します。入院治療の積極的受け入れを行っており、地域の病院・診療所との連携を大切にしています。

【保険診療で実施している技術】

- 光線療法（PUVA療法、ナローバンドUVB療法、エキシマライト）※適用疾患のみ

【臨床研究として実施している技術】

- 遺伝子診断（EBウイルス関連リンパ増殖症、メラノーマ（悪性黒色腫）、隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子検査）



眼科



診療科長
森實 祐基

新しい診療技術を取り入れながら、視覚の質の向上に努めています。

対象疾患

- 黄斑、網膜硝子体疾患
- 緑内障
- 眼炎症（ぶどう膜炎）
- 角膜、前眼部疾患
- 斜視、弱視
- 白内障
- ロービジョン

診療・研究内容

最新の診療技術を取り入れて患者さんの視覚の質の向上に努めています。社会の高齢化とともに増加している緑内障や加齢黄斑変性、白内障をはじめ、難治性の希少疾患等さまざまな眼科疾患に対して地域の荏病院として対応できる体制を整えています。また、安心、安全に最新の治療を受けていただけるよう、経験豊富な各領域の専門家が最先端の機器を用いて治療を行っています。2023年からは当院の外来手術センターにおいても手術を行っており、白内障、緑内障、斜視、角膜・前眼部等の手術を患者さんのニーズに応じて日帰りで受けていただけます。また、診療とともに臨床および基礎研究や医学教育に取り組み、眼科学や地域医療に貢献できるように活動しています。

精神科神経科



診療科長
高木 学

様々な精神疾患の専門的な診断や治療を行い、患者さんご家族の回復を支援します。

対象疾患

- うつ病、躁うつ病
- 統合失調症
- 認知症
- 摂食障害
- コンサルテーション・リエゾン
- てんかん
- 性同一性障害
- 自己免疫性脳炎

診療・研究内容

総合病院精神科として、県下で唯一閉鎖病棟を併せ持った入院施設を有し、多くの専門家からなる多数の医師によるチーム体制で、最先端、最適な治療方針を常に検討して診療を行っています。統合失調症やうつ病などの急性期や難治例の診療に加え、各診療科と連携して身体疾患を併発した精神疾患を有する患者さんの入院にも対応しています。入院診療は閉鎖病棟と開放病棟あわせて28床を有し、これらは大半が個室でプライバシーにも配慮をしています。また、他科入院中の患者さんのコンサルテーション活動や、がん患者さんへの心理・社会的背景なども含めた多面的な評価と介入も行っています。外来は、一般外来に加えて、認知症、性同一性障害、思春期、統合失調症などの専門外来を開設しており、病態解明、新規治療法の開発にも取り組んでいます。

耳鼻咽喉・頭頸部外科



診療科長
安藤 瑞生

耳・鼻・咽喉頭（のど）・頭頸部（顔や首）それぞれの分野の専門家が揃っています。

対象疾患

- 小児難聴
- 慢性／真珠腫性中耳炎
- 顔面神経麻痺
- アレルギー性鼻炎
- 慢性／好酸球性副鼻腔炎
- 口腔がん
- 咽喉頭がん
- 頭蓋底腫瘍

診療・研究内容

新生児から高齢者まであらゆる年齢を対象に、内科的治療から外科的治療、リハビリテーションまでの診療を行っています。火・水・金曜が外来診療日で、耳鼻咽喉・頭頸部外科の分野で全国的に著名な専門医師が診察に当たります。がん治療については、関連する他科とともに「頭頸部がんセンター」を組織し、密に連携した総合的医療を提供しています。医療だけでは解決できない聴覚障がいについては、「聴覚支援センター」と連携して社会的支援を含めたサポートを提供します。また、将来の治療開発のために、難治性疾患の最善の治療を目指して多くの臨床研究を行っています。私たちは患者さんのために最新・最良の医療を提供することはもちろん、未来の医療へ向けて常に挑戦し続ける人材を育成しています。

脳神経外科



診療科長
田中 將太

最先端のテクノロジーを駆使し、最適な治療方法を選択して、治療を行っています。

対象疾患

- 良性脳腫瘍：髄膜腫、下垂体腺腫、神経鞘腫
- 悪性脳腫瘍：グリオーマ、悪性リンパ腫
- 血管：脳動脈瘤、動静脈奇形、硬膜動静脈瘻
- 脊椎脊髄：脊柱管狭窄症、腫瘍、血管奇形
- 機能的疾患：てんかん、パーキンソン病
- 神経圧迫症候群：三叉神経痛、顔面痙攣
- 小児疾患：水頭症、頭蓋骨形成異常、二分脊椎
- 頭部外傷：硬膜下血腫

診療・研究内容

脳腫瘍や脳卒中、頭部外傷に対する生命を救う手術から、予防的手術、脊椎脊髄疾患やパーキンソン病・てんかんなどの症状を改善させるための機能的手術まで、広い範囲をカバーしています。様々な疾患に対して専門家が揃っており、保存的加療から高難度手術まで広く深い治療を提供することができます。術中MRIや術中血管撮影、ナビゲーションシステム、各種モニタリングを用いて、安全な手術を行っています。その他、脳腫瘍では覚醒下手術や高度な遺伝子診断を用いた個別化脳腫瘍治療、脳動脈瘤では3Dモデルによる術前シミュレーションを活用した最適化治療を行っているほか、下垂体腺腫や水頭症に対する神経内視鏡手術、脊椎脊髄内視鏡を用いた手術も積極的に取り組んでおり、最先端のテクノロジーを用いて最適な治療を行っています。

麻酔科蘇生科



診療科長
森松 博史

全身管理、疼痛管理のスペシャリストとして麻酔、集中治療、痛みの診療をしています。

対象疾患

- 手術室での麻酔全般
- 集中治療が必要な重症疾患
- 慢性痛
- 術後急性痛
- 無痛分娩
- 院内急変（コードブルー、RRS）

診療・研究内容

麻酔科蘇生科の診療範囲は、主に手術麻酔・集中治療・ペインクリニックの3領域です。麻酔に関しては、手術の前から多職種チームで患者さんをサポートする「周術期管理センター」を開設し、ベストな状態で手術に臨めるよう診療をしています。手術室で安全に麻酔を行うことはもちろん、術後も集中治療が必要な手術では集中治療室で引き続き麻酔科医師が全身的管理を行います。また術後痛に対しても痛みを最小限にするような様々な鎮痛方法を提供します。手術に関する痛みだけでなく、慢性的な痛みに悩んでいる患者さんには「ペインセンター」外来で投薬や神経ブロックなどを行います。また呼吸管理、循環管理のスペシャリストとして患者の急変、いわゆる「コードブルー」への対応も担っています。

小児循環器科



診療科長
塚原 宏一

重症難治の小児循環器疾患を診断から治療まで担当する日本を代表する施設です。

対象疾患

- 先天性心疾患
- 急性・慢性心不全
- 心筋炎・心筋症
- 難治性不整脈
- 重症川崎病
- 難治性血管病
- 移行期にある種々の心血管疾患
- 他領域の重症疾患に伴う心血管合併症

診療・研究内容

心臓血管外科、麻酔科蘇生科、循環器内科、産科婦人科、放射線科などと協力し、大学病院という総合力を生かして、胎児期から成人期までのすべての先天性心疾患、小児期の後天性心疾患、不整脈、循環動態に問題のある救急疾患を対象にして、診断から治療まで多職種連携の高度医療を実施しています。心臓血管外科、麻酔科蘇生科と小児循環器カンファレンスを週1回行い、循環器内科、心臓血管外科と成人先天性心疾患カンファレンスを月1回行うなど、診療科を超えたチームで診療を行っています。重症先天性心疾患のカテーテル治療は全国でも有数の症例数を誇ります。IVRセンターに小児循環器が優先的に使用できるカテーテル検査室が2室あり、そのうち1室はハイブリッド手術対応となっており、開胸によるカテーテル治療等も実施できます。

小児科



診療科長
塚原 宏一

中国四国地域の小児医療の拠点として、高度先進医療を安全に提供しています。

対象疾患

- 急性脳症など種々の緊急度の高い疾患
- 重症ウイルス・細菌感染症
- 難治性免疫異常症・アレルギー疾患
- 各種呼吸器・消化器疾患
- 内分泌代謝異常症
- 種々の希少難治疾患（骨軟骨疾患も含む）
- 急性・慢性腎疾患
- 水電解質異常症
- 種々の遺伝性疾患

診療・研究内容

胎児、新生児、乳幼児、学童、思春期を経て成人までの成育医療として小児医療の全領域をカバーし、重症・難治の子どもたちに高度で先進的な医療を安心安全に提供しています。一般的な疾患はもとより高度な専門知識・技術を必要とする小児疾患の診断と治療を行っています。小児医療のほぼ全領域における専門医・指導医がチームを組んで診療に当たっています。ご本人・ご家族に診療内容を十分に理解していただくよう努め、「小児医療センター」を中心に各診療科・診療部門と連携した総合診療を行っています。一般病棟だけでなく、PICU（小児集中治療施設）、EICU（高度救命救急施設）、NICU（周産母子センター）でも集中治療を行っています。病棟内に保育施設、院内学級（小・中学校）を設け、長期入院の子どもたちにも対応しています。

小児神経科



診療科長
武内 俊樹

こどもの脳神経にかかわる病気や、診断や治療の難しい特殊な病気を幅広く診療しています。

対象疾患

- てんかん
- 知的発達症、神経発達症、脳性麻痺
- 先天異常
- 先天性代謝疾患、神経変性疾患
- 末梢神経、筋疾患
- 不随意運動
- 頭痛、睡眠障害
- 急性脳炎、脳症

診療・研究内容

子どもの成長と発達のうち、発達を専門とする診療科です。生まれつきの異常や発達の遅れなど、発達・成長途中の時期にみられる様々な脳神経系の病気を対象としています。脳神経系の異常によって現れる症状は極めて多彩であることに加えて、子どもは症状を細かく伝えられないことも多く、また、発達とともに症状が変わっていくという特徴もあります。このような脳神経系の疾患の特徴と子どもの特性を十分に理解した上で、丁寧な診療を行っています。現時点では原因が見つからないてんかん・知的発達症などを持つ患者さんには、比較的稀で特殊な病気が隠れていることも多いため、これらを見つけ出して最良の治療につなげていくための研究も行っています。



小児血液・腫瘍科



診療科長
塚原 宏一

重症患者さんを治療に導き、ご家族に平穏な日々を過ごしていただけるよう努めます。

対象疾患

- 急性・慢性白血病
- 悪性リンパ腫
- 難治性脳腫瘍
- 肝芽腫・神経芽腫・横紋筋肉腫など固形腫瘍
- 骨肉腫・軟骨肉腫など骨格系腫瘍
- 血液凝固異常症・血球貪食症候群
- 難治性免疫疾患・代謝疾患
- 移植が必要となる種々の重症疾患

診療・研究内容

小児外科、脳神経外科、整形外科、肝・胆・脾外科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、眼科などの外科系診療科や血液・腫瘍内科などの内科系診療科と連携して長期的なケア体制を構築し、総合診療を提供しています。緩和支援医療科と協力して心のケアにも努めています。岡山県内では小児科として唯一の骨髄バンク、臍帯血バンクの認定施設であり、HLA半合致移植も積極的に行っています。年間10～15件の造血細胞移植（自家移植含む）を実施しているほか、難治B前駆細胞性急性リンパ性白血病に対するキムリア治療提供可能施設でもあります。がんゲノム医療、分子標的治療、陽子線治療、各種治験などの先進的高度医療も実施し、県内外を問わず積極的に患者さんを受け入れています。多施設共同の臨床研究や血液・腫瘍疾患の病態解明のための基礎研究にも精力的に取り組んでいます。

小児心身医療科



診療科長
岡田 あゆみ

心と身体はつながっています。生物心理社会的に子どもを理解し成長を応援します。

対象疾患

- 起立性調節障害
- 摂食障害
- 慢性頭痛
- 機能的消化管障害（過敏性腸症候群など）
- 園や学校に行きづらい、不安が強い
- 夜尿症、遺糞症など
- 抜毛症、爪噛みなど
- 育児の相談

診療・研究内容

小児科医と公認心理師が協働して完全予約制の診療を行っています。症状と付き合いながら成長していけるよう、ご家族や院内外の各科・各機関と連携しています。心身両面からのアプローチが基本で、お子さんへは生活指導、リラクゼーション、カウンセリング、認知行動療法、遊戯療法、箱庭療法などを行います。ご家族との面接も重要で、家族面接、ペアレントトレーニングなどを並行します。起立性調節障害の診療では、Finometer MIDI（連続血圧・血行動態測定ベーシックシステム）やNIRS（近赤外線分光法）を用いて病態に合わせた治療を提案します。摂食障害の診療では、児童思春期に有効とされる家族療法（FBT:Family-Based Treatment）に取り組んでいます。

小児麻酔科



診療科長
岩崎 達雄

小児医療センターの一員として安全かつ優しい麻酔・周術期管理を提供します。

対象疾患

- 一般小児外科手術の麻酔・周術期管理
- 先天性心疾患に対する開心術の麻酔・周術期管理
- 整形外科等外科系各科の小児手術の麻酔・周術期管理
- 心臓カテーテル検査における麻酔、鎮静
- MRI検査、CT検査における麻酔、鎮静

診療・研究内容

【麻酔・周術期管理】小児麻酔は成人と比べて周術期合併症のリスクが高く、小児自体の特異性及び小児疾患の特異性から、成人麻酔とは異なる知識や技能が要求されます。小児麻酔の十分な知識と経験を備えた小児麻酔科医を中心に、各外科系診療科の手術の患者さんに必要であれば手術前から全身管理を行い病態に応じた麻酔をかけ、重症例の術後急性期の全身管理を行っています。【集中治療管理】手術後の全身管理に加え、当院各診療科や他院から紹介された重症例に対して、集中治療に精通した小児麻酔科医が各診療科と協力し集中治療を行っています。心不全、肺炎など重症呼吸不全、敗血症性ショック、心肺停止蘇生後などの症例に対し一酸化窒素吸入療法、窒素吸入療法、低体温療法、ECMO、持続的血液浄化療法、腹膜透析などの特殊治療を行っています。

小児救急科



診療科長
塚原 紘平

子どもの権利をまもる救急医療を提供します。

対象疾患

- 交通事故に伴う重症外傷
- 広範囲熱傷、重症熱傷
- 薬物中毒・虐待関連外傷
- 溺水・窒息
- 重症呼吸不全
- 中枢性感染症
- 心停止と症候群
- 重症感染症

診療・研究内容

岡山大学病院は高度救命救急センターと小児救命救急センターに指定されています。小児救急の入り口は成人救急との協働で始まっており、専門分化するにあたり、整形外科、脳神経外科といった外科診療科から小児内科である小児科に分かれていく体制となっています。病院前救護では岡山県の消防と連携し、ドクターカーやピックアップヘリで現場に診療に向かうことがあります。子どものみに特化するのではなく、救急現場において、子どもに視点を置いて救急医療ができるように医療者にも教育しています。多くの救急医が小児医療に携わることも目的にすることで、岡山県内で子どもたちが適切な医療を受けられないことがないように体制整備を行っています。

産科婦人科



診療科長
増山 寿

女性の生涯のパートナーとして様々な病気の診断・治療・予防を行います。

対象疾患

- 正常妊娠およびハイリスク妊娠
- 帝王切開癒痕部症候群
- 婦人科良性疾患（子宮筋腫、子宮内膜症など）
- 婦人科悪性腫瘍（子宮がん、卵巣がんなど）
- 不妊症・不育症
- 性器の異常
- 思春期・性成熟期・更年期のヘルスケア
- 骨盤臓器脱

診療・研究内容

他院で治療が困難な患者さんが多く、周産期・腫瘍・生殖内分泌・ヘルスケアの各チームがそれぞれの専門性を活かして、最後の砦として高度な医療を提供しています。特に胎児心疾患などの胎児異常症例、腔欠損などへの造腔術は全国有数です。産科では、母体合併症の管理（糖尿病、精神疾患など）や、異常妊娠（妊娠高血圧症候群、前置胎盤など）、産後ケアの管理に注力しています。出生前診断や遺伝相談も受けています。婦人科では、腹腔鏡やロボットなどの低侵襲手術、がんゲノム医療や治験を取り入れた治療個別化を行っています。生殖内分泌では、不妊症・不育症治療に加え、がん患者さんの妊孕性温存治療や性別不合の治療といった大学ならではの診療を行っています。どの領域でも、女性のトータルヘルスケアを意識して診療しています。

救命救急科



診療科長
中尾 篤典

軽傷からドクターカーを要する最重症まで、急を要する患者さんを幅広く診療します。

対象疾患

- 重症多発外傷
- 広範囲熱傷
- 急性中毒
- 重症感染症
- 小児救急集中治療
- 多臓器不全
- 脳死下臓器提供
- 災害医療

診療・研究内容

目の前の緊急対応が必要な患者さんは、岡山県の救急医療の最後の砦として「いつでも、どこでも、誰でも、何でも」診ることを基本方針としています。院内には高度な協力体制が確立されており、複数の専門診療科の協力のもと、どのような患者さんでもあらゆる手段を駆使して治療にあたることができます。当院の専門診療科でかかりつけの患者さんの怪我や急病はもちろん、多重事故などで多くの傷病者が発生した場合には、ドクターカーで現場に駆け付け、救急隊と一緒に活動します。救命が難しくなった患者さんに対しては、最後まで尊厳を大切に、ご家族と一緒に終末期ケアを行います。これにより、当院は多くの脳死下臓器提供も行うことができ、患者さんの意思に寄り添い、貴重なリビングウィルを実現できるように努めています。

放射線科



診療科長
平木 隆夫

画像診断、放射線治療、IVRで全身の病気を診断し、低侵襲に治療します。

対象疾患

- 画像診断が必要な全身の良性、悪性疾患
- 放射線治療が有効な全身の悪性腫瘍
- 四肢体幹部の血管奇形
- 四肢体幹部の動脈瘤
- 肺がん
- 腎がん
- 類骨骨腫

診療・研究内容

画像診断はレントゲン、CT、MRIなどの画像を駆使して全身の病気を診断しています。放射線治療では脳腫瘍、頭頸部腫瘍、肺がん、食道がん、乳がん、甲状腺がん、肝細胞がん、前立腺がん、子宮がん、転移性骨腫瘍など全身の様々ながんを治療対象としており、定位放射線治療や強度変調放射線治療、強度変調回転照射法などの精密な照射により、副作用を最小限に抑え、治療効果を向上させています。IVRでは、腫瘍や動脈瘤、血管奇形に対する血管塞栓術、肺がんや類骨骨種に対するラジオ波や腎がんに対する凍結療法などを主に行っています。研究については、フォトンカウンティングCTを用いた画像診断法の開発や医工連携で血管や腫瘍の焼灼機器の開発、針穿刺ロボットの開発、各種臨床試験やハイドロゲルスペースの臨床応用等に取り組んでいます。

病理診断科



診療科長
柳井 広之

幅広い領域にわたって質の高い病理診断を行い、診療を支えています。

対象疾患

- 各種腫瘍性疾患
- 炎症性疾患

診療・研究内容

主に患者さんの組織、細胞を顕微鏡でその形を観察し、さらに分子レベルでの検討も行っており病気の本質をとらえて適切な治療に結びつけるのが病理診断です。また、手術中に術式を決めるための術中迅速診断をとおり、過不足のない手術を行うために重要な役割を果たしています。治療を受けた患者さんに対しては治療効果の評価を行うことも私たちの重要な仕事です。病理検体はほぼ全ての診療科から提出され、全身の疾患に対応するため、各領域を得意とする病理医を中心として主治医との連携をとりながら質の高い診断を心がけています。直接患者さんにお会いする機会はほとんどありませんが、私たちの診断をとおり最適切な診療が行われることを願っています。

緩和支援医療科



診療科長
市原 英基

すべての苦痛を持つ患者さんに緩和ケアを提供します。

対象疾患

- 主にがん自体や治療に伴う痛み、呼吸困難、倦怠感、精神症状などの苦痛症状
- 非がんの臓器不全などに伴う苦しみや、今後の治療・療養についての相談

診療・研究内容

単に病気の治癒のみに目を向けるのではなく、病を持つ患者さんとそのご家族の受ける様々な苦痛、苦悩に目を向け、それらに対応することにより生活の質を向上させることを目標としています。当院には様々な病気の治療を行う専門家が存在しますが、緩和支援医療科ではこれら専門の医師と連携しながら、様々な他科の医療従事者（精神科、歯科、放射線科、麻酔科など）やその他の医療従事者（看護師、薬剤師、ソーシャルワーカー、臨床心理士、栄養士、リハビリ、歯科衛生士など）と協同し、患者さんやご家族の受ける苦痛に対応しながら生活の質を向上させる取り組みを行うとともに、その生活の質を向上させる研究活動を行っています。

臨床遺伝子診療科



診療科長
平沢 晃

ゲノム情報に基づき一人一人に合わせた診療を行っています。

対象疾患

- 遺伝性のがん
- 小児期に発症する遺伝性の病気
- 成人期に発症する遺伝性の病気
- 出生前診断等
- がん遺伝子パネル検査の適応と
考えられる方（主治医からの紹介が必要です）

診療・研究内容

遺伝診療とがんゲノム医療を行っています。遺伝診療では、遺伝性の病気の診断だけでなく、結果に基づいた病気の予防や早期発見に向けて、情報提供や診療連携などを行っています。遺伝性疾患の症状の有無に関わらず、遺伝診療が必要な方はどなたでもご相談ください。がんゲノム医療では、当院は中四国で唯一の「がんゲノム医療中核拠点病院」として厚生労働省から指定を受け、がん遺伝子パネル検査を行い、がんの遺伝子変化を調べて治療薬の選択につなげる診療を行っています。外来は予約制で、臨床遺伝専門医と認定遺伝カウンセラーなどの、専門知識をもったスタッフが対応いたします。最新の情報をわかりやすく伝えられるよう、また納得のうえで選択していただけるよう心がけています。



歯科-総合歯科部門



部門長
山本 直史

口腔領域の総合的診断に基づいた包括的な歯科治療を行う診療科です。

対象疾患

- う蝕
- 歯周病
- 歯髄炎、根尖性歯周炎
- 歯の欠損
- その他、一般的な口腔内の疾患

診療・研究内容

担当医のみならず複数の歯科医が互いの専門分野から治療方針を検討し、十分な科学的根拠に基づいた歯科医療を実践するとともに、患者さんとのコミュニケーションに十分な時間を取って診療を行います。大学病院においては、口腔内に様々な問題を抱えている場合、通常では複数の専門診療科を受診して治療を行う必要があります。しかし、総合歯科においては、お口の中の状態に合わせて一人の担当医が複数の専門歯科医とともにすべての治療を行うことが可能であるため、処置ごとに診療科が変わる必要がありません。したがって当科では、一口腔一単位での総合的な治療が可能です。また、高度専門的な診療が必要と判断した場合は、専門診療科と連携しながら診療を行うことも可能です。

歯科-保存歯科部門



部門長
鈴木 茂樹

歯質と歯髄を保存し、歯を守る治療を行います。

対象疾患

- う蝕
- 歯髄炎
- 象牙質知覚過敏症
- 根尖性歯周炎
- 歯肉炎、歯周炎
- 変色歯、着色歯
- 歯の破折
- 咬耗、磨耗、酸蝕症
- エナメル質・象牙質形成不全症

診療・研究内容

う蝕（むし歯）やその他の原因で欠損が生じた歯の修復治療や、歯の中の神経（歯髄）の治療、歯周炎の治療を専門に行っています。う蝕治療は早期発見・早期治療のみならず、う蝕の進行を止める環境改善が最も重要であります。当部門では、歯を削ることは最小限にし、歯質と歯髄を保存し、歯を守ることを第一に考えて、う蝕の管理・治療を行います。審美歯科外来では、自然美にあふれた白い歯にすることに特化した、ホワイトニングや、精密コンポジットレジン修復などを行っています。研究では、象牙質や歯髄を再生させる治療法の開発や、審美性修復材料を用いたう蝕治療法の開発、象牙質知覚過敏症に対応した洗口剤についての臨床研究を行っています。

歯科-歯周科部門



部門長
高柴 正悟

全身の健康に寄与する歯周病内科を実践します。～難治性の歯周病と歯内疾患に対応～

対象疾患

- 歯周病（侵襲性歯周炎を含む）
- 歯髄炎
- 根尖性歯周炎
- 歯周炎症が関与する全身の各種疾患

診療・研究内容

歯周病と歯内疾患を中心に口の健康を守り、同時に口の中の感染と炎症が全身の健康状態に及ぼす影響を減らし、皆様の健康を守ります。歯科の究極の目的を、① 栄養摂取（食事）と② 感染・炎症の制御（歯周病内科）の2つに設定しています。これを果たすことで、「健康寿命」だけではなく「幸福寿命」の延伸をめざします。『ソフトランディング・エイジング（SoLA）を目指す自然体』の心で、患者の皆さんの生涯に渡る健康維持に役立つ臨床を展開しています。具体的には、歯周病専門医・認定医と歯科保存治療専門医・認定医を中心とした診療体制で、基本的な治療から顕微鏡下での歯周外科・歯内外科の治療と歯周組織再生治療までを行います。そして、歯髄と歯周組織から歯を守り、全身の健康管理に有益な口の状態にして口の機能を発揮させます。

歯科-口腔インプラント科部門



部門長
窪木 拓男

口腔インプラントの専門診療科として、安心、安全な対応で、広く患者を受け入れます！

対象疾患

- 義歯やブリッジが合わない方
- 口腔インプラント治療を希望される方
- 見た目やかみ合わせが気になる方
- 睡眠時無呼吸症候群、いびきや歯ぎしり
- 外傷や手術による顎顔面部の欠損
- スポーツ用マウスガード
作製
- 顎関節症、口腔顔面痛
- 金属アレルギー

診療・研究内容

歯科技工士との連携により、安心、安全なインプラントの埋入と、それを固定源とした義歯を当日もしくは翌日に患者さんに提供し、義歯のない間の食事の苦痛や見た目、発音の問題に苦しまなくてもよい方法を採用しています。また、事前に顎の骨の形をCT画像で三次元的に把握しておき、コンピューター上でインプラントの埋め込み手術を模倣しておくことで、入院不要のインプラント手術（ガイドサージェリー）を実施しています。口腔インプラントや再生医療、デジタル技術に関連した世界の最先端の基礎研究、臨床研究の成果をいち早く臨床現場で応用していきます。医科系診療科とも協力して顎関節症・口腔顔面痛、睡眠時無呼吸症候群、金属アレルギーの診断・治療、入院中の患者さんの栄養管理を担当し、地域医療の最後の砦としての機能を提供しています。





歯科-補綴歯科部門



部門長
秋山 謙太郎

失われた歯や歯周組織（骨や歯茎）や咀嚼・嚥下障害、構音障害などを補綴装置を用いて治療します。

対象疾患

- 歯の欠損
- クラウン・ブリッジ治療
- 義歯治療
- インプラント治療
- 顎顔面補綴
- 顎関節症
- 摂食・嚥下障害
- 構音障害

診療・研究内容

- ①補綴治療：咬合検査、咀嚼能率検査、舌機能検査等、必要な検査結果に基づいた治療の提供。
- ②顎関節症：MRI、断層撮影等による診断を基にした顎関節の痛みや咬み合わせの不調に対する治療。
- ③顎顔面補綴：口とその周囲に生じた腫瘍などを手術によって取り除いた後に装着する補綴物の提供。
- ④歯科インプラント治療：顎骨のCTによる診断に基づいた治療。
- ⑤夢の会話プロジェクト外来：舌垂全摘の患者さんのための新しい人工舌装置を提供しています。
- ⑥構音障害治療：脳血管疾患に付随した構音障害の患者さんに対するPAP（舌接触補助床）やPLP（軟口蓋挙上装置）のほか、オーダーメイドNSV（Nasal Speaking Valve）による治療を行っています。

歯科-歯科放射線科部門



部門長
柳 文修

歯科放射線学と口腔診断学を中心とした部門であり、特に画像診断を担当しています。

対象疾患

- う蝕（虫歯）
- 歯周炎（歯槽膿漏）
- 外傷
- 炎症
- 腫瘍
- 嚢胞
- 顎関節疾患
- 唾液腺疾患

診療・研究内容

パノラマエックス線撮影、デンタルエックス線撮影を中心とした顎口腔領域の口内法・口外法のエックス線写真撮影を行っています。さらに、MRI、歯科用コーンビームCT、CT、超音波検査（エコー）、唾液腺造影などの特殊撮影を施行し、対象疾患の診断を行っています。検査とその診断を業務の主体としているため、地域医療機関からの直接紹介あるいは各診療科の主治医を通して依頼されるという体制になっています。画像による診断のみではなく、実際に治療を行う依頼医の立場を考え、臨床情報を加味した総合診断を行うことで、治療に役立つ情報を提供することを心がけています。

歯科-予防歯科部門



部門長
江國 大輔

「口腔」を対象領域とし、歯科疾患の予防・管理を行います。

対象疾患

- むし歯
- Tooth wear（トゥースウェア：歯の咬耗、摩耗、酸蝕症など）
- 象牙質知覚過敏症
- がん治療における周術期の口腔ケア
- 口臭
- 口腔乾燥
- オーラルフレイル

診療・研究内容

歯の喪失の2大要因は「むし歯」と「歯周病」です。う蝕に対してはフッ化物の応用、歯周病に対しては口腔清掃をベースとした歯周治療・管理を行います。さらに口腔機能の管理も行います。患者さんのニーズに応え、治療満足度を高めます。特に、歯を残したいというニーズに応えるようにします。具体的には、1～6か月間隔で来院していただき、う蝕・歯周病・口腔機能の管理を行うことで、できるだけ歯を残すことを得意としています。また、頭頸部がん治療を受ける方に専門的な口腔管理を実施することで、がん治療中のさまざまな副作用に対応し、がん治療がスムーズに受けられるようサポートします。また、口臭に対しては、専用の検査機器を用いて口臭の測定を行います。客観的データをもとに、口臭の原因について探索し、その対処法を検討していきます。

歯科-歯科麻酔科部門



部門長
宮脇 卓也

歯科治療及び口腔外科手術における「安全」「安心」「快適」を提供します。

対象疾患

- 口腔外科手術の全身麻酔・鎮静管理
- 歯科治療の全身麻酔・鎮静管理
- 障がい者歯科における全身麻酔・鎮静管理
- 三叉神経痛
- 顎顔面領域の痛み・知覚異常
- 歯科用局所麻酔薬アレルギー

診療・研究内容

「歯科麻酔」とは、麻酔管理を通じて安全で痛みのない快適な歯科医療を提供するための専門領域であり、さらに、口腔顎顔面の「痛み」の病気を治療する専門領域です。歯科麻酔科部門では、歯科治療及び口腔外科手術において、静脈内鎮静法および全身麻酔による麻酔管理・行動調整、口腔顎顔面領域に発生した「痛み」「知覚異常」の診断と治療を行っています。また歯科用局所麻酔薬に対するアレルギーが疑われる患者さんに対するアレルギー検査を行っています。日本歯科麻酔学会認定の指導医、歯科麻酔専門医、及び認定医が中心となり、他の診療科と連携しながら診療にあたっています。

口腔外科-顎口腔再建外科部門



部門長
飯田 征二

口腔顎顔面領域の形態異常と機能障害に対し高度な治療法を開発し、実践します。

対象疾患

- 口唇裂・口蓋裂
- 顎変形症
- 顎骨骨折
- 口腔腫瘍
- 顎骨腫瘍・嚢胞
- 口腔前がん病変
- 薬剤誘発性顎骨壊死
- 智歯を含む埋伏歯

診療・研究内容

岡山大学歯学部之源流をなす歴史ある診療科です。口腔外科の診療は単純な抜歯から生命に関わる悪性腫瘍の治療まで網羅しています。大学病院の口腔外科として全ての領域に対してトップクラスの治療を提供するのは当然ですが、特に、当部門は口唇口蓋裂に対する高いクオリティーの治療を看板にしており、顎変形症などの顎口腔顔面領域での成長障害に対しての安全確実な治療を提供しています。また、悪性治療に関しては頭頸部がんセンターのメンバーとして医歯連携による治療成績の向上に貢献しています。教室としては常に各疾患の最新の治療を提供するため、積極的な臨床研究や学術活動を通して、エビデンスに基づく医療の提供を目指し、地域の中核施設としてさまざまな口腔疾患の治療にあたっています。

矯正歯科



診療科長
上岡 寛

歯を動かすことで最適な噛み合わせをつくり、美しい口元、笑顔の獲得をめざします。

対象疾患

- 叢生（乱ぐい歯）
- 上顎前突（出っ歯）
- 反対咬合（受け口）
- 開咬（上下の歯が噛んでいない）
- 空隙歯列（すきっ歯）
- 埋伏歯（歯が骨の中に埋まっている）
- 顎変形症（あごの手術が必要）
- 口唇裂・口蓋裂

診療・研究内容

検査結果に対する詳細な分析を行った後、診療科長を含む複数の矯正を専門とする歯科医による症例検討会を経て、科学的根拠に基づいた診断を行います。多くの場合、ひとつの治療方針を提示するのではなく、患者さんの訴えを吟味した複数の治療方法を提示し、患者さんの事情に応じた最適な治療を選んでいただきます。歯科矯正用アンカースクリューを用いることにより、コントロールできる歯の移動方向が増え、治療の幅が増えました。近年多様化する患者さんの要望に応えるため、誰にも気付かれずに矯正歯科治療を受けたい患者さんに対しては表から見えない舌側からの矯正装置や透明の矯正装置を用いた治療を行っています。また、痛みに敏感な患者さんに対しては痛みの少ないごく弱い力がかかる矯正装置や材料を用いた治療を行っています。

口腔外科-口腔顎顔面外科部門



部門長
伊原木 聡一郎

口腔外科の最後の砦として口、顎、顔面に発生する疾患の手術を専門的にを行っています。

対象疾患

- 口腔の良性および悪性腫瘍（口腔がん）
- 顎変形症
- 顎顔面外傷
- 顎や口腔軟組織にできる嚢胞
- 唾液腺疾患
- 口腔粘膜疾患
- 顎口腔領域の重症感染症

診療・研究内容

＜口腔がん＞口腔がんの診断・治療を行っています。集学的治療による治療成績の向上を目指しています。治療後の発音・咀嚼・嚥下などの機能障害や審美障害に対しては、関連診療科の協力により、再建手術や顎顔面補綴、摂食嚥下治療を行っています。当部門は日本口腔腫瘍学会 口腔がん専門医制度の施設認定を受けています。＜顎変形症＞矯正歯科医と連携して顎矯正手術を行っており、年間手術件数の多さは西日本地域有数です。また、顎の高度な変形に対しては、骨延長法を組み入れた先進的医療を行っています。当部門は日本顎変形症学会 認定医（口腔外科）制度の施設認定を受けています。＜顎関節疾患＞習慣性顎関節脱臼に対し、手術療法を行います。顎関節症強直症に対しては、顎関節人工関節全置換術を行うための施設基準を満たしています。

小児歯科



診療科長
仲野 道代

乳幼児期、学童期・思春期の方を対象として、健全な口腔の育成を目指しています。

対象疾患

- むし歯や歯周病の治療および予防管理
- 外傷で歯に損傷がある場合の治療ならびにフォローアップ
- 乳歯が残っている時期の歯並び、咬み合わせの管理
- 埋伏歯・歯の先天欠如
- 形成不全歯
- 全身疾患を有する小児の包括的な口腔内管理
- 心身発達障がい児の歯科治療
- 歯科恐怖症を有する小児の歯科治療

診療・研究内容

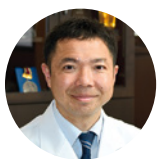
乳幼児期、学童期、および思春期の方を対象として、様々な疾患に対する治療を行っています。乳幼児期からのむし歯予防は、健全な口腔内環境を形成するためにも非常に重要であり、保護者の方への口腔衛生指導を重点的に行っています。治療終了後には定期検診を継続していくことにより、新たなむし歯や歯周病の早期発見・早期治療に努めています。また成長発育期に認められる歯列不正に関する診査診断も行っています。必要に応じて、他の専門の歯科診療科に紹介することや、小児科などの医科と連携する場合もあります。さらに、小児歯科では様々な疾患を対象としたヒト口腔の唾液あるいは歯垢の中に含まれるむし歯や歯周炎に関する細菌の分析を行い、将来の新たな治療アプローチに対する臨床研究を行っています。



薬剤部

部長 座間味 義人

「利他精神を基盤にして人材を育成し、大学病院の使命に則って、未来志向の薬剤部業務を展開する。」を念頭に置き、安全かつ良質な薬物療法の推進に努めています。調剤室、薬品管理室、麻薬管理室、製剤室、医薬品情報室、薬剤管理指導室、外来薬剤業務管理室、試験研究室、治験管理室、臨床試験支援室から成り立っています。これらはお互いに連携し業務の効率化を図っています。



看護部

部長 岩谷 美貴子

看護部の理念は、「質の高い看護サービスを効果的に、効率的に、倫理的に、エンパワーメントを通して提供する」です。高度先進医療を受ける患者さんご家族が安心・納得して治療が受けられるように、入院前から退院後までの生活を見据えて支援します。また、医療チームの中で、「24時間、命をまもり、生活を支える」役割を担い、看護の専門性を発揮します。



医療技術部

部長 東影 明人

検査部門、放射線部門、臨床工学部門、総合リハビリテーション部門、臨床栄養部門、歯科部門、臨床心理部門で構成され、医療技術職員約250名を一元化し、職種を越えた協力体制を図っています。国家資格を有する専門医療技術者として、医療技術の質の向上を図り、臨床診断や治療部門と連携し、検査、処置、治療等をサポートしています。



聴覚支援センター

センター長 前田 嘉信 センター長補佐 片岡 祐子

聴覚障がい者の情報バリアを改善し、自立し、活躍できる社会を実現することを目指しています。1人1人の聞こえの状態や学校、社会での困難さを正確に把握し、聴取やコミュニケーション、QOLを改善するような医療、社会的支援を提供していきます。院内の多科の医療者、学内外多職種の専門家とも連携を取りながら、ベストなサポートの推進に努めています。



ダイバーシティ推進センター

センター長 前田 嘉信

ダイバーシティ推進センターは、多様な能力と価値観を尊重し、すべての職員が働きやすい職場環境づくりを目指し、DE&I (Diversity, Equity and Inclusion) を推進しています。職員一人ひとりの仕事への満足度とウェルビーイングの向上を大切にすることで、多様性を力に変え、個々の状況に合わせた働き方を支援し、職員の能力を最大限に活かすことで、質の高い医療の提供と、職員の心身の健康の両立を目指します。



医療安全管理部

部長 安藤 瑞生

高度医療に伴うリスク増加に向き合いながら、医療者と患者の相互理解に基づいた最高水準の安全・質の医療の提供を目指します。

医療機器安全管理室

室長 安藤 瑞生

医療機器の保守点検の実施や使用状況の確認、不具合時の対応、職員への教育と研修など、医療機器のすべてに関わる安全管理体制の確保を目指します。

感染制御部

部長 安藤 瑞生

患者の皆様と協力しながら、日々の診療やケアの中に感染対策を取り入れ、医療に関わる全ての人を、感染から最適に効果的に守ることを目指します。

放射線診療品質管理室

室長 平木 隆夫

放射線診療における医療事故防止、患者さんの被ばく線量を中心に品質管理を行い、安全性確保とレベル向上に努めています。

高難度新規医療管理部

部長 増山 寿

当院で導入予定の「高難度新規医療技術」や「未承認新規医療品・医療機器」が、適正な手続きのもとと提供されるよう管理を行います。

集中治療部 (ICU)

部長 森松 博史

敗血症や心不全、呼吸不全などの重症患者や、大手術の術後管理など、高度な医療技術が必要な患者の全身管理を24時間体制で麻酔科医が担っています。

病理部

部長 松川 昭博

患者さんから採取された細胞や組織検体を一定の操作のあとに染色して顕微鏡標本を作成する部門です。細胞診断は細胞検査士が関与します。

光学医療診療部

部長 大塚 基之

様々な内視鏡を用いた診断・治療を統括している部門です。安全でレベルが高く、苦痛がない内視鏡診療を患者さんに提供できるよう心がけています。

高度救命救急センター

センター長 中尾 篤典

急を要する患者さんは、24時間365日、いつでも誰でも何でも、熟練した救急科専門医が専門診療科と協力しながら診療しています。

内分泌センター

センター長 和田 淳

西日本有数の内分泌診療の拠点として、下垂体・甲状腺・副甲状腺・膵・副腎・骨代謝・遺伝性腫瘍などのあらゆるホルモンの病気を診療しています。

超音波診断センター

センター長 大塚 文男

循環器・消化器・表在部門で構成され、「診療科の垣根を越えた集約的検査」を理念に、各科の医師と専門の超音波検査士が高度な医療実現に努めています。

IVRセンター

センター長 平木 隆夫

がんや血管の病気に対し、カテーテルや針を用いて低侵襲で先端的な治療を行っています。各職種の連携による、優れたチームワークで診療しています。

運動器疼痛センター

センター長 西田 圭一郎

なかなか良くならない運動器の慢性疼痛やリウマチ性疾患の痛みに対して、多職種・多診療科が協力して痛みを和らげる治療を実践します。

循環器疾患集中治療部

部長 笠原 真悟

心臓疾患の術前・術後の管理を集中的に行う部門です。カテーテル治療を含めた高度な医療技術によりハイリスク心疾患治療に貢献しています。

輸血・細胞療法部

部長 藤井 伸治

輸血関連検査や血液製剤の保管管理など、輸血業務全般を担う部門です。また、造血幹細胞移植やCAR-T療法のための細胞採取にも力を入れています。

医療支援歯科治療部

部長 曽我 賢彦

岡山大学病院が提供する、高度な医療に必要な口腔の管理を行っています。より良い医療に貢献し、幸せな生活を送っていただけるよう頑張っています。

総合周産期母子医療センター

センター長 増山 寿

2025年6月1日に指定を受けました。産科と小児科を中心に関連各科と協力して母体、胎児、新生児の診療に従事しています。生殖医療にも対応しています。

周術期管理センター

センター長 森松 博史

手術予定の患者さんが安全に手術を受けられるよう、麻酔科医師、歯科医師、看護師、栄養士、薬剤師など、多職種のチームで患者さんをサポートします。

低侵襲治療センター

センター長 藤原 俊義

外科系診療科と連携し、積極的に低侵襲手術を導入しています。特にロボット支援下手術件数は国内でもトップクラスの実績を有しています。

ジェンダーセンター

センター長 難波 祐三郎

性別不合を中心に、性分化疾患や外性器異常に対して、精神科神経科、産科婦人科、泌尿器科、形成外科の4科連携による包括的治療を行っています。

重症心不全センター

センター長 中村 一文

重症心不全患者の皆さまの診断・治療・ケアを担当しています。「高度な医療をやさしく提供すること」をモットーにチーム医療を行います。

総合リハビリテーション部

部長 尾崎 敏文

様々な原因によって低下した機能を改善するとともに残された能力を最大限に発揮させ、再び日常生活を自立して行えるように治療する部署です。

血液浄化療法部

部長 和田 淳

入院中の腎不全患者さん、検査・手術が必要な維持透析患者さん、腎移植前の患者さんへの透析療法、各種難治性疾患に対するアフレルシス療法を行っています。

臨床栄養部

部長 和田 淳

多職種と連携し、治療の一環として栄養管理、栄養指導、給食管理、臨床研究を行うことにより、多くの疾患の治療に貢献することを目指しています。

腫瘍センター

センター長 市原 英基

高度ながん薬物療法を安全に提供するとともに、地域がん医療の向上と均てん化に貢献することを目指します。

臓器移植医療センター

センター長 前田 嘉信

臓器移植により多くの命が救われるよう、肺・肝・腎の移植医やコーディネーターが協力し、移植前から移植後まで安全でより良い移植医療を提供します。

糖尿病センター

センター長 和田 淳

糖尿病とその合併症の診療にあたる各診療科が連携し、先進的な医療を提供します。また糖尿病診療に携わる人材育成と地域医療連携の強化を目指します。

炎症性腸疾患センター

センター長 平岡 佐規子

主に炎症性腸疾患 (IBD：潰瘍性大腸炎・クローン病) について、重症あるいは難治性患者さんの診療の核として、専門性の高い診療を行います。

スペシャルニーズ歯科センター

センター長 江草 正彦

障がい (児) 者・要介護者の方を中心に、患者さんの状態にあわせて、専門医による歯科治療および摂食嚥下リハビリテーションを行っています。



中央診療施設

核医学診療室

室長 平木 隆夫

核医学診療室では放射性医薬品を利用し、臓器の機能・代謝の診断、腫瘍の性質などの診断、および特定の腫瘍に対する放射線治療を行っています。

結石治療室

室長 荒木 元朗

主に尿路結石（尿管結石・腎結石）に対して、体外衝撃波結石破碎装置（ESWL）を用いた治療を行っています。安全性に配慮しています。

歯科総合診断室（予診室）

室長 柳 文修

歯科における初診患者さんの病歴聴取と初期診断を行い、治療に最適な診療科・部門に紹介します。医科入院患者さんの歯科受診・往診の紹介窓口としても機能します。

てんかんセンター

センター長 田中 將太

脳神経系の診療科が協力し、こどもから大人までの幅広い年齢に対し、薬物療法、食餌療法や手術治療など、多角的なアプローチで治療を行っています。

サルコーマセンター

センター長 尾崎 敏文

整形外科を中心に肉腫（サルコーマ）に対し多職種連携および診療科横断的診療を行い、治療成績の向上や患者さんの生活の質の改善を目指しています。

成人先天性心疾患センター

センター長 湯浅 慎介

大人になった先天性心疾患の患者さんの診療を行っています。循環器内科、心臓血管外科、小児科を中心に他科と連携を取り、全人的医療を提供しています。

医療情報部

部長 郷原 英夫

病院情報システム（電子カルテ）とネットワークの管理を行っています。診療現場とベンダーとの連絡役としても、円滑な業務遂行を補助しています。

経営戦略支援部

部長 井上 貴裕

診療報酬監査室や診療情報管理室などの協力により、主に病院経営に係る調査、統計及び分析や経営改善に係る支援等を行います。

臨床工学センター

センター長 森實 祐基

医療機器の効果的運用と保守点検の実施に加え、医療機器操作等の教育、診療の技術支援を通し、安心・安全かつ高度な医療を提供します。

総合患者支援センター

センター長 大塚 基之

患者さんへ医療・看護・福祉の点から、包括的で継続的なサービスを提供するための部署です。種々の相談に応じ、院内外の医療連携を支援しています。

物流センター

センター長 増山 寿

患者さんの診療に必要な医療器材を合理的、経済的かつ効率的に管理し、安全で質の高い医療器材や医療材料の提供を行います。

技工室

室長 窪木 拓男

歯科での修復物や補綴物、手術支援に使用するサージカルガイドや臓器3Dモデルなど、医科歯科診療の「生体に関するものづくり」を担当しています。

歯科衛生士室

室長 窪木 拓男

歯科衛生士は医科を含め13に渡る診療科に配属の傍ら、10のチーム医療にも参加し医科歯科の各科と連携を強め、患者さんの口腔健康管理の一翼を担っています。

歯科地域医療支援室

室長 柳 文修

紹介患者さんの予約取得と院内の調整を行います。地域医療機関との連携を強化し、機能を分担することで、医療の質向上と患者サービスに寄与します。

院内がん登録室

室長 増山 寿

地域の病院・診療所と連携し、院内にとどまらず地域のがん医療の分析と評価を行い、がん登録を通じてがん医療全体の質向上とがん医療の啓蒙に努めます。

新医療研究開発センター

センター長 前田 嘉信

医薬品や医療機器の研究開発を推進する国内トップレベルの臨床研究中核病院、橋渡し研究支援機関として、病院発イノベーション創出を目指しています。

卒後臨床研修センター 医科部門・歯科部門

センター長 前田 嘉信

臨床研修プログラムの作成、研修医の臨床指導、協力型施設との連絡調整、研修ローテーションの決定、指導医講習会の企画・実施等を行っています。

ゲノム医療総合推進センター

センター長 豊岡 伸一

患者さんの遺伝子やゲノム情報を活用したゲノム医療の推進、新たな医薬品等の開発、人材の育成を行っています。

バイオバンク

バイオバンク長 豊岡 伸一

血液、組織、尿などの検体と診療情報を保管・管理し、医学研究などに使っていただくお手伝いをしています。研究によって未来の医療が生まれます。

乳がん治療・再建センター

センター長 枝園 忠彦

あらゆる乳がんに対して最適な乳房再建を施行します。同時乳房再建数は国内随一を誇ります。また部分切除においても整容性の優れた手術を行います。

小児頭蓋顔面形成センター

センター長 田中 將太

頭蓋顔面疾患に対して、その機能や外観を長期的に満足のいくものにするため、脳神経外科、形成外科、矯正歯科を中心に総合的な医療を提供しています。

頭頸部がんセンター

センター長 安藤 瑞生

医師・歯科医師・多職種メディカルスタッフの密な連携により、西日本最高の頭頸部がん治療（口腔、咽喉頭、鼻腔、唾液腺、甲状腺など）を提供します。

認知症疾患医療センター

センター長 前田 嘉信

相談窓口を総合患者支援センター内に設置し、認知症患者さんの入院加療や適切な医療機関の紹介を行います。また、介護者やご家族への教育活動や一般市民への啓発活動に努めます。

小児医療センター

センター長 前田 嘉信

胎児期から成人期までの重症・難治疾患に対応しています。内科系・外科系にとどまらず、こころの診療、遺伝相談まで幅広い領域を対象にしています。

口腔検査・診断センター

センター長 柳 文修

地域の医療機関等から要望のあった顎顔面口腔領域における検査や診断を行う組織です。相談窓口は歯科地域医療支援室に設置しています。

食道疾患センター

センター長 藤原 俊義

食道がんを中心に食道疾患全般を多職種のエキスパートと協同して診療しています。最新の集学的治療を個々に合った最適な治療を提案しています。

臨床心理センター

センター長 高木 学

医療チームの一員として身体的・心理的・社会的な視点をもって、多職種と連携し、心理的支援（心理検査、心理面接）を行っています。

高度医療人育成センター

センター長 森実 真

良質で安定的な医療提供体制の維持・発展に貢献するため、医療系キャリアの形成及び向上の支援と多職種連携医療の促進に向けた活動を行っています。

お口の健康管理センター

センター長 江國 大輔

歯科ドック（むし歯、歯周病、がん、機能不全）を受けて、自身の健康状態を把握することができます。データ活用で予防医療の開発にも貢献します。

希少がんセンター

センター長 前田 嘉信

患者さん・ご家族、医療関係者のご相談に対応するための希少がんホットラインを開設し、希少がんに関する正確かつ最新の情報をお届けします。

小児・AYAがん総合センター

センター長 前田 嘉信

小児・AYA世代（0～39歳）の血液・腫瘍疾患の患者さんご家族に対し、小児期から成人期まで切れ目なく丁寧で総合的な診療と支援を行います。

神経内分泌腫瘍センター

センター長 大塚 基之

「神経内分泌腫瘍」は稀な疾患ですが専門家を中心に豊富な診療経験を有しています。最新の情報に基づく正確な診断、適切な治療や遺伝医療を提供します。

診療科連携部門

診療支援施設

教育研究施設

診療科連携部門



職種別職員数

2025年6月1日現在



医師	811	理学療法士	23
歯科医師	265	作業療法士	7
医師歯科医師以外の教員	10	言語聴覚士	7
看護師	1,095	視能訓練士	7
看護業務補助者	41	歯科衛生士	16
薬剤師	71	歯科技工士	7
診療放射線技師	56	社会福祉士	7
臨床検査技師	73	診療情報管理士	14
管理栄養士	11	事務職員等	406
臨床工学技士	29	その他の職員	110
臨床心理士	8	総計	3,077
精神保健福祉士	3		

(単位：人)

病床数

2025年4月1日現在

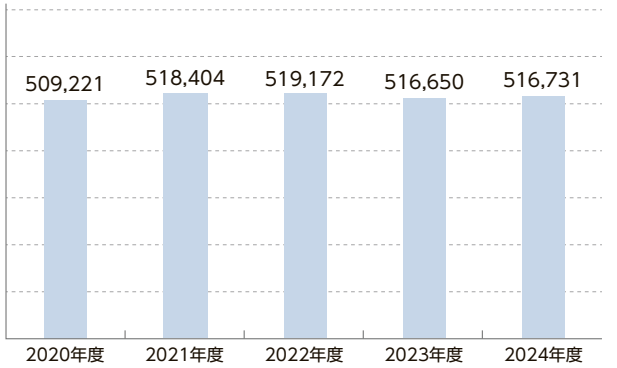
849床

一般病床 …… 813床
精神病床 …… 34床
感染病床 …… 2床



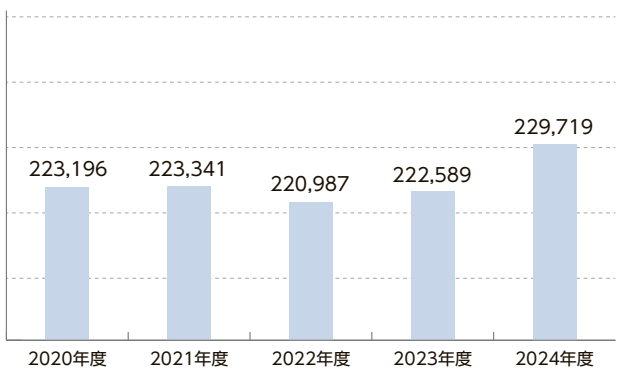
外来患者数

外来患者延べ人数（人）



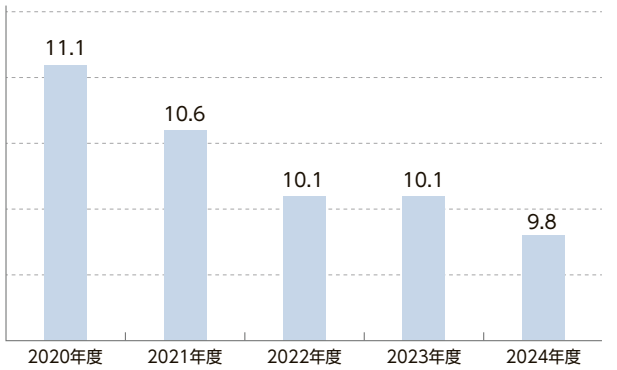
入院患者数

入院患者延べ人数（人）



平均在院日数

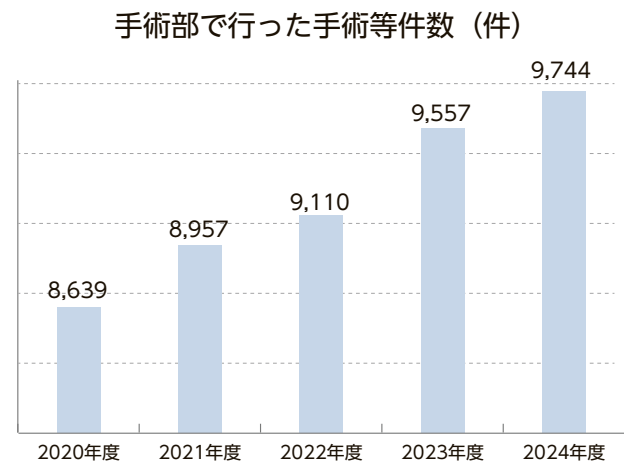
平均在院日数（日）



外国人患者国籍別順位（人）

	2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度	
1位	中国	266	中国	343	中国	390	中国	736	中国	271
2位	ペルー	159	ベトナム	259	フィリピン	109	ベトナム	296	ベトナム	264
3位	ブラジル	107	スペイン	252	アメリカ	105	ドイツ	279	インドネシア	117
4位	ベトナム	73	フィリピン	213	ベトナム	97	アメリカ	142	フィリピン	115
5位	フィリピン	72	ブラジル	82	ミャンマー	77	フィリピン	90	アメリカ	100
(1～5位合計)		677		1,149		778		1,543		867
6位以下(日本国籍、不明含む)		499		468		569		493		815

手術件数



※2023年3月からは外来手術センターで実施した手術を含む。



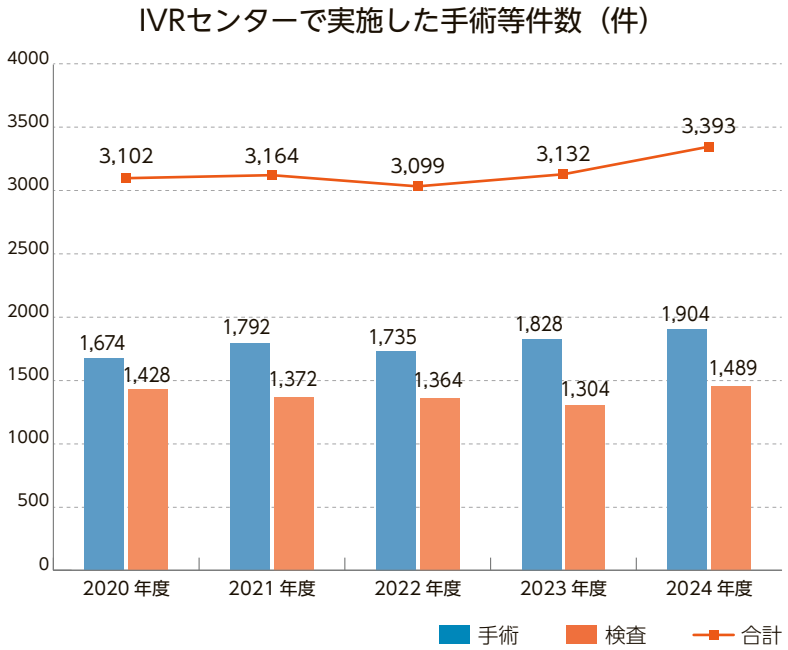
臨床検査件数

2024年度

区 分	医科・歯科		合 計（件）
	入院患者（件）	外来患者（件）	
一般検査	33,590	124,584	158,174
血液学的検査	321,757	393,482	715,239
生化学的検査	904,643	2,224,128	3,128,771
内分泌学的検査	26,636	106,667	133,303
免疫学的検査	113,459	239,171	352,630
微生物学的検査	59,363	22,475	81,838
病理学的検査	9,608	12,928	22,536
生理機能検査	15,432	53,517	68,949
採血・採液等	7,746	100,217	107,963
内視鏡検査	1,263	7,046	8,309
その他の検体検査	6,302	3,974	10,276
合 計	1,499,799	3,288,189	4,787,988



IVRセンターで実施した手術等件数



救急用自動車または救急医療用ヘリコプターによる搬送件数

岡山県内で2か所ある「高度救命救急センター」の一つとして、最重症患者を診療しています。救急科専門医を中心に全診療科が関与して24時間365日救急患者の受入れを行っています。

2022年度	2023年度	2024年度
4,178 件	4,543 件	5,559 件



ドクターカー出動件数

2022年4月から本格運用を開始。車体外観の装飾は、職員による広報チーム「岡大病院Face活性化ミーティング」メンバーがデザインしました。

	2022年度	2023年度	2024年度
ECMO搬送 ピックアップ搬送	32 件	46 件	33 件
転院搬送	41 件	66 件	663 件
合 計	73 件	112 件	696 件



分娩件数

2024年度



327件

正期産 274件
早期産 53件
過期産 0件

臓器移植実績

2024年度

肺



生体 0件
死体 9件

肝臓



生体 5件
死体 6件

腎臓



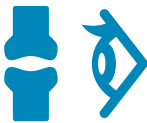
生体 15件
死体 2件

血液



骨髄移植（同種移植） 7件
骨髄移植（自家移植） 2件
末梢血幹細胞移植（同種移植） 14件
末梢血幹細胞移植（自家移植） 10件
臍帯血移植 13件

その他



皮膚移植（生体） 3件
分層植皮術 9件
骨移植術 195件
角膜移植術 34件

脳死下臓器提供数

最後まで尊厳を失うことなく、患者さんご本人の意思を反映できるように、ご家族と一緒に終末期について考えています。

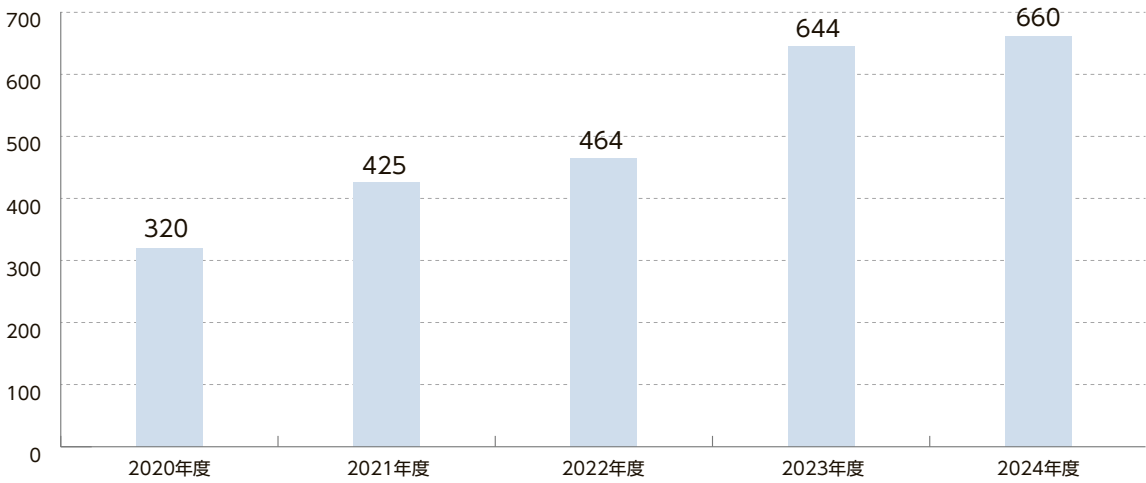
2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	合計
1	2	2	2	4	4	8	5	6	34

(単位：例)

手術支援ロボット手術件数

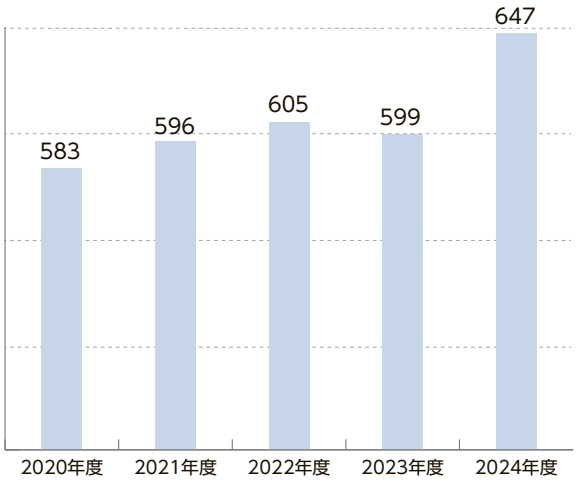
当院は、2010年に手術支援ロボット「ダビンチ」を初めて導入し、2025年4月現在で3台（ダビンチXi3台）稼働しています。

ダビンチを使用した手術件数（件）

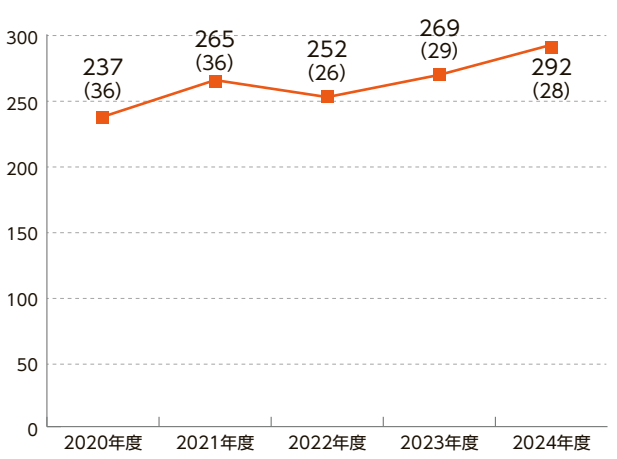


治験実施数

治験実施患者数（前年度以前からの継続患者含む）（人）

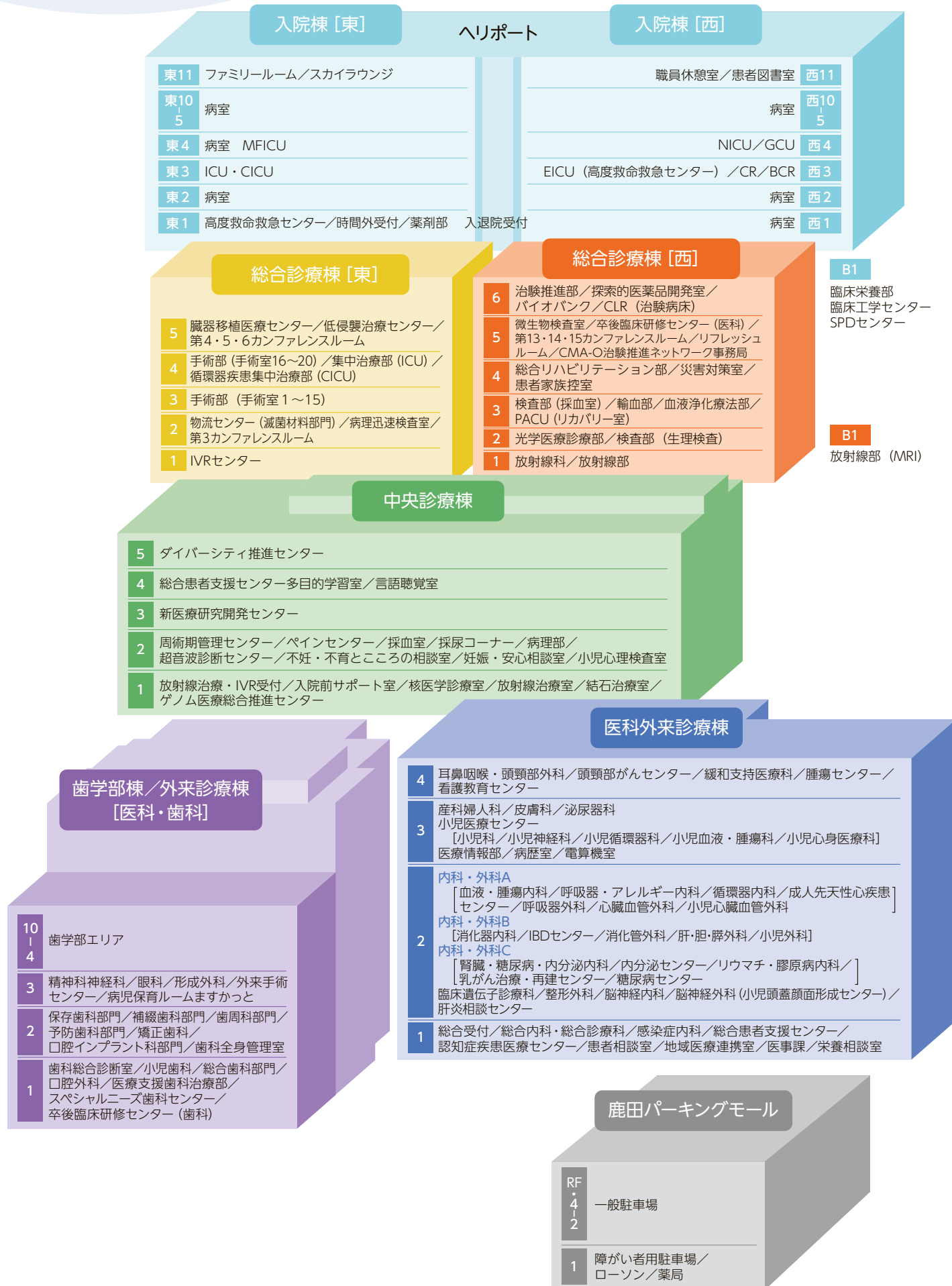


治験契約件数（前年度以前からの継続患者含む）（件）
※カッコ内はそのうちの医師主導治験数

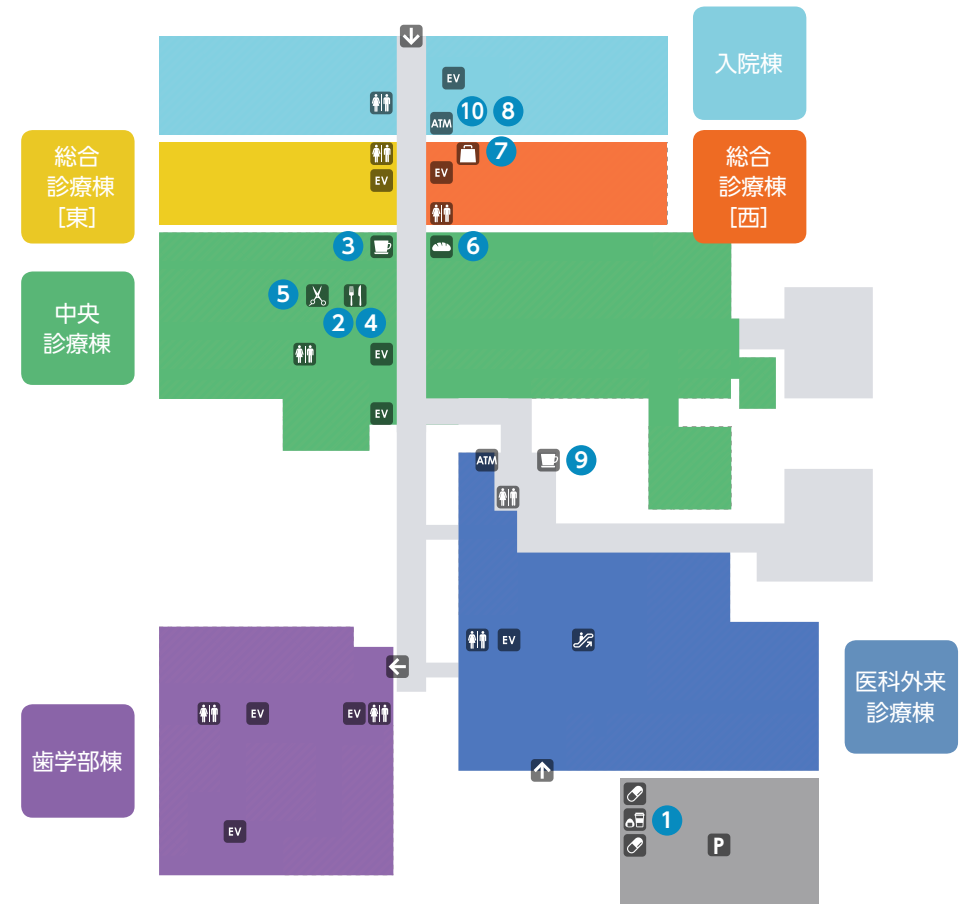


フロア案内

2025年6月1日現在



- 玄関・出入口
- エスカレーター
- エレベーター
- トイレ
- 食堂・レストラン
- 喫茶・カフェ
- 銀行ATM
- 売店
- 理美容室
- ベーカリー
- 薬局
- コンビニ



院内サービス



1 ローソン 岡大病院店



2 和食・洋食レストラン



3 上島珈琲店 岡大病院店



4 セルフうどん鶴久



5 理容・美容
メディカルビューティーラウンジ



6 ベーカリーNico



7 売店
マルシェドゥ ボンテ
薬局 クスリ ぷちふあるま



8 サービスセンター積善会

その他店舗

- 9 スターバックスコーヒー
- 10 エスパス・リーブル (自動販売機コーナー)
- ONSAYA COFFEE (オンサヤコーヒー) 鹿田キャンパス店

建物配置図



交通アクセス



●公共交通機関でお越しの場合（岡山駅から）

- バス
岡山駅から約10～12分
「大学病院（構内バス停）」もしくは「大学病院入口」下車
- 路面電車
岡山駅から約12分
「清輝橋」下車→西に徒歩約10分
- タクシー・車
岡山駅から約12分

●お車でお越しの場合

外来駐車場は大変混み合います。ご来院にはできる限り公共交通機関のご利用をお願いいたします。
駐車料金は、介護者の方の運行・患者の皆さまの安全な乗降に配慮した進入路の整備など、お車でお越しの患者の皆さまが安全で快適にご利用いただくための整備に活用させていただきます。ご理解とご協力をお願いいたします。



学 章

岡山大学病院

〒700-8558 岡山市北区鹿田町二丁目5番1号

お問合せ窓口：Tel. 086-223-7151（代表） Fax. 086-235-7636

<https://www.okayama-u.ac.jp/user/hospital/>

岡山大学病院

検索



2025年6月発行